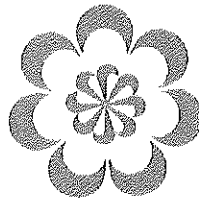


令和4年度

# 事業報告書



社会福祉法人 永光会

法人本部

## 1. はじめに（法人本部総括）

令和4年度は、群馬県内の多数の医療機関や福祉施設等で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、永光会でも7月から8月にかけて清流の郷のデイサービスでデイサービス利用者4人と職員9人が感染、永光荘では、令和5年1月中に特養利用者61人と職員18人が感染、うち12人の利用者がお亡くなりになるという誠に遺憾な結果となった。お亡くなりになられた利用者に対し心からのご冥福をお祈りするとともに、ご家族や関係者に深くお詫び申し上げたい。このようなクラスター発生によって、デイサービスやショートステイが一時閉館に追い込まれ、また相次ぐ特養入居者の退所によって、令和4年度は当初予算に比べて大幅な赤字となった。令和5年度は事業計画書で示したように、これらの反省の上に立って、新型コロナウイルス感染症対策と財政基盤の確立を重点取組事項として位置付け取り組んでいくとともに、今年度策定した次期中期計画の推進を図りたい。

令和4年度の法人本部事業計画に掲げた重点取組事項と事業実績等について、概要を以下に記し総括とする。

### 1) 事業継続に向けた取組みの強化

#### ①新型コロナウイルス感染症対策の継続（BCPに基づいて）

群馬県の警戒レベルにとらわれずに高齢者福祉施設として面会等の制限を行い対策を行ってきたが、施設外で感染した職員を通じて、結果的に上記のとおり、クラスターを引き起こす結果となった。

#### ②BCPに基づく実効ある訓練の実施とBCPの見直し・改善

前年度に制定した災害発生時の事業継続化計画（BCP）に基づいて訓練を実施した。

永光荘：地震発生時初動訓練 令和4年10月27日（木）

清流の郷：水害発生時職員連絡訓練 令和5年 3月 7日（火）

### 2) ICTの推進によるサービスの質の向上と業務の効率化

#### ①LIFEの活用⇒サービスの質の向上

既にLIFEによるデータ送信は実施中であるが、厚労省において事業所へのフィードバックデータの内容について検討中である。詳細の判明後に内容を検討し更なるサービス向上を図りたい。

#### ②システムの自動化、ICT・ロボットの導入⇒業務の効率化

センサー付きベッド5台購入。ラインワークスの活用による情報伝達方法の効率化を図った。

### 3) SDGsの推進

2ヶ月ごとに重点行動（5項目）を設定し実施した。

### 4) 次期中期計画の策定

次期中期計画（令和5年度～7年度）策定済み（令和5年度法人本部事業計画書参照）

表1-1

## 令和4年度 法人合算資金収支総括表

(単位：千円)

	決算額 (A)	補正後予算額 (B)		当初予算額 (C)	
			(A-B)		(A-C)
事業活動収入 (a)	883,400	884,841	△1,441	924,916	△41,516
事業活動支出 (b)	886,771	898,507	△ 11,736	897,601	△10,830
①収支差額 (a-b)	△3,371	△13,666	10,295	27,315	△30,686
②施設整備等資金収支差額	△45,346	△45,625	279	△49,143	3,797
その他の活動収入 (c)	1,009	869	140	869	140
その他の活動支出 (d)	15,253	15,257	△4	16,577	△1,324
③収支差額 (c-d)	△ 14,244	△14,388	144	△15,708	1,464
当期資金収支差額 (①+②+③)	△62,961	△73,679	10,718	△37,536	△25,425

表1-2

## 当期資金収支差額の推移表

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
金額 (千円)	27,450	△11,524	4,982	△62,961	(3,591)

( ) は予算

表1-3

## 各事業の介護保険収入等

単位：千円

各事業	年度				
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
永光荘特養	353,347	357,657	363,436	359,943	352,067
永光荘ショートステイ	41,419	43,476	41,662	43,810	43,535
永光荘デイサービス	79,938	88,449	80,939	81,185	77,955
清流の郷特養	246,212	244,276	247,999	250,615	253,425
清流の郷ショートステイ	27,308	25,373	25,646	26,073	44,574
清流の郷デイサービス	91,300	91,476	81,993	82,474	70,896
居宅介護支援事業所	17,881	19,662	14,995	16,505	15,854
地域包括支援センター(※)	20,875	21,127	21,024	21,283	21,123
合計	878,280	891,496	877,694	881,888	879,429

※指定介護予防支援事業所を含む。

上記表1-1～3に記載する令和4年度の数値は決算理事会報告時のもの。

## 2. 評議員会及び理事会等の運営

令和4年度は、評議員会3回、理事会4回、監事監査1回を開催し、各事業の円滑な執行に努めた。

### 1) 評議員会の運営状況

通算回数	実施日	評議員出席/定数	監事出席/定数
①通算第73回	R4. 6. 17	9/9	2/2
② # 74回	R4. 12. 2	8/9	2/2
③ # 75回	R5. 3. 23	8/9	1/2

※議題、結果については、表2-1に示す。

### 2) 理事会の運営状況

通算回数	実施日	理事出席/定数	監事出席/定数
①通算第168回	R4. 5. 27	8/8	1/2
② # 169回	R4. 11. 18	7/8	2/2
③ # 170回	R5. 3. 9	7/8	1/2
④ # 171回	R5. 3. 16	7/8	0/2

※議題、結果については、表2-2に示す。

### 3) 監事監査の実施状況

実施日 : 令和4年5月13日(金)

実施内容 : 令和3年度会計執行状況及び法人・施設運営状況

結果報告 : 第168回理事会及び第73回評議員会にて報告

## 3. 法人運営会議開催状況(月1回)

理事長及び業務執行理事(施設長、事務長)の出席の下、永光荘、清流の郷、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターの経営に関する諸課題に対応するために下記の事項を推進した。

### 1) 「永光荘」、「清流の郷」、「居宅介護支援事業所」及び「地域包括支援センター」の運営管理

詳細はそれぞれの事業報告書に記載した。

### 2) 法人組織統治(ガバナンス)

#### ① 法令遵守、働き方改革のための諸規程の制定・改訂

就業規則改訂2回、給与規程改訂1回、職員永年勤続表彰規程改訂1回、コンプライアンス(法令等遵守)規程の制定

#### ② 永光会基本理念・運営方針・倫理綱領等の徹底

全職員への事業計画書の配布と説明、理念等掲示、新人研修会での説明等

#### ③ 中期計画の策定

中期計画(令和5年度～令和7年度)の見直し及び策定

### 3) コンプライアンスの徹底

コンプライアンス（法定遵守）規程の制定及び周知

### 4) 事業運営の透明化

#### ①財務諸表等の経営情報の積極的開示

- ・永光会ホームページに令和3年度決算報告及び事業報告書、令和4年度事業計画書を掲載。
- ・厚生労働省の財務諸表等電子開示システムを通じ法人概要、財務諸表及び地域における公益的な取組等を公開。

#### ②ホ人情報の地域への発信

- ・広報紙「永光会たより」 4回発行（各1,200部）  
令和3年度決算報告と役員・評議員名を掲載（8月号）
- ・フェイスブックによる施設行事等の紹介

### 5) 財務規律の強化

①令和4年度はコロナウイルス感染症によるデイサービスやショートステイの一時閉館や特養入居者の退所により収支は赤字となった。

②社会福祉充実残高の算定（残高なし）

### 6) 地域における公益的な取組の推進

①「なんでも福祉相談」群馬県ふくし総合相談事業継続実施

②県災害福祉支援ネットワーク事業への参画

（人材育成3回、保健所連携研修2回）

③福祉有償運送事業の実施 40件/年（要介護39件 要支援1件）

④認知症サポーター養成講座の実施（一般向け）

⑤地域における家族介護教室、介護保険説明会の実施

⑥生活困難者に対する社会福祉法人による利用者負担軽減制度（計185,552円）

### 7) 人材確保と定着に向けた取組み（採用状況については表A～E参照）

#### ①人材の確保策

- ・介護福祉士養成校や群馬県マンパワーセンター開催の就職面接会への参加（新卒・中途採用対策）2回/年
- ・留学生マッチング説明会（群馬パース福祉専門学校）への参加 1回/年
- ・留学生アルバイト雇用及び奨学金受給に係る保証人（外国人対策）  
新規2人

#### ②人材の育成策

- ・施設内・外研修への参加、委員会活動の活性化（詳細は各事業報告）
- ・人事考課制度の実施（賞与査定時）

#### ③人材の定着策

- ・働き方改革等による職場環境の改善等（フレックス制の試行導入）
- ・ストレスチェック等の実施

表 A 新卒者採用状況

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
(人)	5	2	2	2 (予定)

表 B 外国籍職員採用状況 (上記のうち)

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
(人)	1	1	2	1 (予定)

表 C 新卒以外の中途採用者の状況 (パート含む)

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(人)	9	4	19

表 D 離職率の状況

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(%)	9.0	6.0	12.0

\*職員離職率は全国水準(目標13%)を下回っている。理由は様々であるが比較的短期間での退職が多かった。

表 E 事業所別採用・退職実績 (人)

事業所	職 種	採 用	退 職
永光荘 特養	介護 (常勤)	5	4
〃 〃	介護 (非常勤)	1	
〃 〃	看護 (常勤)	1	1
〃 〃	用務 (常勤)	1	
〃 〃	用務 (非常勤)		1
〃 デイ	介護 (常勤)	1	
〃 デイ	看護 (非常勤)	2	1
清流の郷特養	介護 (常勤)	2	3
〃 〃	介護 (非常勤)	3	
〃 〃	看護 (常勤)	1	
〃 〃	看護 (非常勤)		1
〃 〃	調理・栄養士 (常勤)	1	3
〃 〃	調理・栄養士 (非常勤)	2	
〃 デイ	介護 (常勤)	1	
〃 〃	介護 (非常勤)		1
〃 〃	看護 (常勤)	1	
〃 〃	看護 (非常勤)		1
居宅介護	介護支援専門員 (常勤)	1	
古巻地域包括	介護支援専門員 (常勤)		1
合 計		23	17

表 2 - 1

## 評議員会の運営状況

通算 回数	議題・結果
73	<p>*令和3年度事業報告（①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部（永光荘デイサービスセンター、永光荘ショートステイ）③特別養護老人ホーム清流の郷（管理部、特養部（特別養護老人ホーム、ショートステイ）、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘 ⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）について &lt;承認&gt;</p> <p>*令和3年度決算（案）（①本部会計②永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）について &lt;承認&gt;</p> <p>*監事による監査報告</p>
72	<p>*令和4年度一次補正予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘デイサービスセンター）②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）について &lt;承認&gt;</p>
73	<p>*令和4年度2次補正予算（案）（①本部会計②永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について &lt;承認&gt;</p> <p>*令和5年度事業計画（案）（①法人本部②永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部）③清流の郷（管理部、特養部、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について &lt;承認&gt;</p> <p>*令和5年度予算（案）（①本部会計②永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について &lt;承認&gt;</p>

表 2 - 2

## 理事会の運営状況

通算回数	議題・結果
168	<p>* 令和 3 年度事業報告（案）（①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部（永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③特別養護老人ホーム清流の郷（管理部、特養部（特別養護老人ホーム、ショートステイ）、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘⑤渋川市古巻地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について &lt;承認&gt;</p> <p>* 令和 3 年度決算（案）（①本部会計②永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）④居宅介護支援事業所永光荘、⑤渋川市古巻地域包括支援センター（渋川市地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について &lt;承認&gt;</p> <p>* 監事による監査報告</p> <p>* 社会福祉法人永光会定時評議員会の開催について &lt;承認&gt;</p> <p>* 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）</p> <p>* 寄付の報告について（報告）</p> <p>* 社会福祉法人永光会倫理綱領及び行動指針について（報告）</p>
169	<p>* 令和 4 年度一次補正予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘デイサービスセンター）、②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター））について &lt;承認&gt;</p> <p>* 社会福祉法人永光会諸規定（①コンプライアンス規程②職員永年勤続表彰規程③就業規則④給与規程）の制定・変更（案）について &lt;承認&gt;</p> <p>* 社会福祉法人永光会評議員会の開催について &lt;承認&gt;</p> <p>* 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況の報告について（報告）</p>
170	<p>* 令和 4 年度二次補正予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）、②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）、③居宅介護支援事業所永光荘、④地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について &lt;承認&gt;</p> <p>* 令和 5 年度事業計画（案）（①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部）③特別養護老人ホーム清流の郷（管理部、特養部、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について &lt;承認&gt;</p> <p>* 社会福祉法人永光会就業規則の一部変更について &lt;承認&gt;</p> <p>* 社会福祉法人永光会評議員会の開催について &lt;承認&gt;</p>
171	<p>* 特別養護老人ホーム永光荘新型コロナウイルス感染症クラスターの発生について</p>



表3 法人委員会・会議関連

会議・委員会名	会議内容	実施回数
法人運営会議	BCPの検討・作成 中期計画の見直し 策定、コロナウィルス感染症対策、 その他各事業所に関する諸課題の検討	13回
広報委員会	広報誌「永光会たより」の企画・検討・ 発行、ホームページの見直しなど	11回
人事考課検討委員会	人事考課制度の運用に関する事項の検 討・提案	1回

## 5. 沿革

1986 (昭和61) 年	6月18日	社会福祉法人永光会 法人認可 初代理事長に真下玄永就任
	7月2日	社会福祉法人永光会 法人成立
1987 (昭和62) 年	4月1日	特別養護老人ホーム永光荘開設 (定員50人) 短期入所 (定員6人) 初代施設長に飯塚春雄就任
	2月1日	1989 (平成元) 年
1989 (平成元) 年	2月1日	渋川デイサービスセンター開所 (渋川市委託事業) 永光荘40人増員 (定員90人)
	6月30日	施設長 飯塚春雄退任
	7月1日	2代施設長に真下誠治就任
1991 (平成3) 年	8月20日	機関紙「永光会たより」創刊
1992 (平成4) 年	4月1日	真下施設長 群馬県デイサービスセンター連絡協議会初代会長に就任 (~H10. 3. 31)
1993 (平成5) 年	4月8日	初代理事長真下玄永逝去
	9月22日	2代理事長に梅澤次郎就任
1994 (平成6) 年	1月17日	渋川デイサービスセンター長時間利用開始
	3月30日	渋川デイサービス開所5周年記念事業 ボランティア体験教室感想文集「またくるね」発行
	7月1日	渋川在宅介護支援センター永光荘開設 (渋川市委託事業) 永光荘ホームヘルプサービス事業開始 (渋川市委託事業)
1995 (平成7) 年	2月1日	老人短期入所定員変更6名増員 (定員12人)
	11月14日	群馬県サービス評価委員会の評価受査
1997 (平成9) 年	4月1日	デイサービス名称変更「永光荘デイサービスセンター」
	7月19日	永光荘開所10周年記念式典開催
1998 (平成10) 年	4月1日	永光荘デイサービスセンターE型開所 (定員10人)
1999 (平成11) 年	2月24日	永光荘デイサービスセンター10周年記念式典開催
	8月2日	福祉オンブズマン「はあとらんど」契約締結
	11月1日	在宅介護支援センター永光荘、県指定居宅介護支援事業者認可
2000 (平成12) 年	12月31日	施設長 真下誠治退任
	1月1日	3代施設長に梅澤良三就任
	3月10日	特別養護老人ホーム永光荘 (定員90人)、県指定介護老人福祉施設認可 永光荘ショートステイ (定員9人)、県指定居宅サービス事業者認可 永光荘デイサービスセンター (定員35人) 認可 永光荘デイサービスセンターE型 (定員10人) 認可

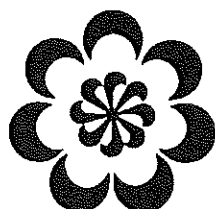
			永光荘ホームヘルプステーション認可
2000 (平成12) 年	5月31日		理事長 梅澤次郎退任
	6月1日		3代理事長に真下誠治就任
2001 (平成13) 年	11月22日		評議員会設置
2002 (平成14) 年	1月31日		2代理事長梅澤次郎逝去
2003 (平成15) 年	3月31日		永光荘デイサービスセンターE型廃止
	4月1日		永光荘デイサービスセンターE型を永光荘デイサービスセンターへ統合 (定員45人)
	9月1日		永光荘デイサービスセンター定員5人増員 (50人)
2006 (平成18) 年	4月1日		介護予防事業開始 (短期入所生活介護、通所介護 訪問介護)
2007 (平成19) 年	12月19日		渋川市特別養護老人ホーム清流の郷指定管理者に指定 (平成20年4月1日運営開始)
2008 (平成20) 年	4月1日		渋川市特別養護老人ホーム清流の郷運営開始 (定員: 特養50人、ショート6人、デイサービス25人)
			特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター、在宅介護支援センター永光荘及び永光荘ホームヘルプステーションの県指定の更新 (6年間)
2010 (平成22) 年	2月28日		永光荘ホームヘルプステーション廃止 多機能型居宅ケアグループとして統合 (永光荘ショートステイ・永光荘デイサービスセンター在宅介護支援センター永光荘)
2011 (平成23) 年	12月22日		優良民間社会福祉事業施設として天皇陛下より御下賜金拝受
2012 (平成24) 年	12月19日		渋川市特別養護老人ホーム清流の郷第2期指定管理者受託 (運営期間: 平成25年4月1日～平成26年3月31日)
2013 (平成25) 年	3月31日		施設長 梅澤良三退任
	4月1日		4代施設長に菊地文夫就任 多機能型居宅ケアグループを廃止し、永光荘を管理部・特養部・居宅ケア部に編成。居宅介護支援部の中に居宅介護支援事業所永光荘と渋川市在宅介護支援センター永光荘を設置
2014 (平成26) 年	3月31日		渋川市特別養護老人ホーム清流の郷第2期指定管理終了
			居宅介護支援事業所清流の郷休止
	4月1日		渋川市より永光会へ特別養護老人ホーム清流の郷を譲渡
	7月10日		渋川市と「災害時における要援護者の受入れに関する協定書」を締結
2015 (平成27) 年	9月24日		特別養護老人ホーム清流の郷 喀痰吸引等登録

研修機関の登録

	9月30日	居宅介護支援事業所清流の郷廃止
2016（平成28）年	2月4日	社会福祉法人永光会 自家用有償旅客運送者登録（福祉有償運送）
2016（平成28）年	10月27日	特別養護老人ホーム永光荘 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
2016（平成28）年	11月30日	永光荘デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
2017（平成29）年	2月9日	社会福祉法人永光会評議員選任・解任委員会設置
2017（平成29）年	3月31日	施設長 菊地文夫退任
	4月1日	5代永光荘施設長に村上忠明就任 2代清流の郷施設長に大谷義隆就任
	7月12日	永光会創立30周年記念式典開催
	11月9日	特別養護老人ホーム清流の郷 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
	12月1日	渋川市古巻地域包括支援センター運營業務受託（運営期間：平成30年4月1日～平成33年3月31日）
	12月7日	清流の郷デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
2018（平成30）年	2月23日	渋川市古巻地域包括支援センター 指定介護予防支援事業所指定（平成30年4月1日事業開始）
	3月14日	永光荘デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス（渋川市第1号通所事業）指定通知（指定年月日：平成30年4月1日）
	29日	清流の郷デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス（渋川市第1号通所事業）指定通知（指定年月日：平成30年4月1日）
	31日	渋川市在宅介護支援センター永光荘廃止 居宅介護支援事業所永光荘に名称変更4/1～
2018（平成30）年	4月1日	渋川市古巻地域包括支援センター運営開始 永光荘ショートステイ介護予防短期入所生活介護の県指定の更新（2年間）
2020（令和2）年	1月14日	特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ（介護予防含む）、特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ指定通知（指定年月日：令和2年4月1日）

- 2月19日 居宅介護支援事業所永光荘指定通知（指定年月日：令和 2年4月1日）
- 3月 2日 永光荘デイサービスセンター、清流の郷デイサービスセンター指定通知（指定年月日：令和 2年4月1日）
- 8月 7日 渋川市古巻地域包括支援センター運営委託第2期（令和3年度～5年度）受託内定
- 2021（令和 3）年 4月 1日 渋川市古巻地域包括支援センター第2期運営委託開始
- 12月15日 特別養護老人ホーム永光荘 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2022（令和 4）年 1月17日 永光荘デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 12月19日 特別養護老人ホーム清流の郷 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2023（令和 5）年 2月21日 清流の郷デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）

令和4年度  
事業報告書



社会福祉法人 永光会

特別養護老人ホーム永光荘

管理部

特養部

居宅ケア部

・永光荘デイサービスセンター

・永光荘ショートステイ

## もくじ

1. はじめに(総括)	…	1
2. 管理部	…	4
1) 総括	…	4
2) 総務課	…	4
3) 用務課	…	5
3. 特養部	…	11
1) 総括	…	11
2) 介護課	…	12
3) 看護課	…	13
4) 栄養課	…	13
4. 居宅ケア部	…	19
1) 総括	…	19
2) ショートステイ	…	20
3) デイサービス	…	21
4) 看護課	…	22
5. 整備関係整備年表	…	27

## 1. はじめに(総括)

令和4年度は、コロナ禍にあっても入居者・利用者が笑顔で暮らせるような環境づくりを目標とした。そのためには、職員それぞれに地力(じりき)の向上が必要であることから施設運営方針を『たくさんの笑顔のために、地力を磨こう!』として事業展開をした。

重点取組みの一つに感染症(新型コロナウイルス)への対応策強化を挙げ、ワクチン接種、備蓄品の確保やBCPに基づく研修や訓練を行ってきた。しかし残念ながら令和5年1月に職員感染から1ヵ月にわたり新型コロナウイルス感染症の大規模クラスターを発生させてしまった。この間、入居者61人、職員18人が感染し、感染された入居者のうち12人が亡くなる誠に遺憾な結果となった。お亡くなりなされた方に対して、心よりご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様にご挨拶とお悔やみ申し上げます。

また、入居者・家族・関係の皆様にも大変なご負担とご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。

今回の大きな犠牲を繰り返さないために、クラスター中に出た意見等を含め、収束後に全職員から振り返り意見を求め、課題の検証と対応策を以下の項目で整理した。

- ①感染拡大の抑制
- ②体制の構築
- ③入居者ケア
- ④職員へのケア
- ⑤感染予防対策

これらを基に、感染症業務継続計画と関連するマニュアルの見直しを行った(令和5年4月)。今後も入居者・利用者の生活に寄り添う介護をすすめていきたい。

令和4年度運営方針の取組については、以下のとおりある。

### 1. 給湯設備更新工事の推進

これまで、A重油地下タンクから2カ所3台のボイラーを使用し、浴室・調理室・洗濯室の給湯をまかなってきた。

A重油地下タンクを廃止(経年数による改修が迫っていた)し、小規模A重油タンクを新たに設置し、1カ所2台のボイラーで、浴室の給湯に対応することにした。

調理室・洗濯室については、それぞれガス給湯器を使用する変更を行った。

国際情勢の影響で変更後からガス代等が高騰しており、電気代を含め省エネの実施が課題となった。

ボイラーの入替えにより10日間入浴が停止になり、入居者・利用者にご迷惑をおかけした。

この間を利用し、こちらにも懸案だったリフト浴の更新を行った。

特養部では、全身清拭で対応させていただいた。職員としては、災害時等で入浴ができなくなった場合のシミュレーションとして、課題や対応の見直し等思わぬ成果も得られた。

居宅ケア部では、希望者を中心に全身清拭を実施した。マンツウマンのゆったりとした対応で大変喜ばれた。

5月末には浴室の完成をみたが、中庭については、小規模A重油タンクへのタンクローリーの動線対応に伴う門扉の改修と舗装工事を10月に完了。この動線確認を待



った浴室からの景観整備については、未完了と課題を持ち越した。

## 2. 災害・感染症への対応力強化

### BCP研修・訓練

- ①地震想定： 6月 2日 概要説明と想定される課題の抽出訓練  
10月27日 夜間地震発生（夜勤者等の動き）  
対策本部立上げ及びその後の各班の想定訓練
- ②感染症： 8月16日 感染者発生からのゾーニングの指定方法及び  
備品・消耗品の保管状況確認

感染症に関しては、クラスター対応の中で対応方法等に課題が多くみつき、先述のとおり、見直しを行った。

## 3. 財政基盤の安定への取組み

- ①特養部：クラスターによる退去者増ならびに新規受入れの1カ月停止により  
下記のとおり、大きく稼働率を下げてしまった。  
ベッド稼働率 89.3%（目標：94.2%）

\*特養部・ショートステイ 合算ベッド稼働率 91.3%（目標：96.2%）

### ②居宅ケア部：

\*ショートステイは、特養のクラスターの影響で1カ月新規受入れを  
停止した影響でわずかであるが目標未達となった。

10.1人/日（目標：10.5人/日）

\*デイサービスについては、特養部と同時期に利用者5人・職員3人の  
感染者が発生したため、5日間の休館を行った。休館明け後も利用  
控えがみられ正常に戻るのに2週間程度を要した。

年間7,258人（目標：7,900人）

デイサービスについては、利用者減少が大きい。新規利用者獲得に向け営業を  
更に強化する。また、利用者の欠席理由のうち、利用者の気分起因するものも  
見受けられるため、楽しく利用できるように働きかけをすすめる。

## 4. 科学的裏付けに基づく介護への取組み

- ①LIFEへのデータ送信は、適宜実施できている。しかし、運営主体の国のシス  
テム構築の遅れからフィードバックされてきていないため、本来の活用は未達と  
なった。データの入力のために個別情報の整理が行えたことは成果であった。

- ②各委員会が中心となって、必要なマニュアルの見直しや制定を行った。

新規作成 2件（酒気帯び運転確認方法・薬品管理マニュアル）

見直し 22件（感染症対策マニュアル・喀痰吸引マニュアル・介護マニ  
ュアル等）

③虐待防止・身体拘束の適正化・リスクマネジメントについての研修年2回実施し、職員の意識の向上に努めた。

\*リスクマネジメントの面では、入れ歯の紛失が、本人の飲み込みと気づけずに、それを起因とした急変によってお亡くなりになったこと、心よりご冥福をお祈り申し上げるとともに、再発防止に向け対応方法を徹底した。

④入居者・利用者の「笑顔」のための取組みについては、日常的な作品作り、畑・花壇づくり、おやつ作り等を行えたが、納涼祭、餅つき等は、新型コロナウイルス感染症の第7波・第8波の影響で職員の自宅待機者が増えたのと入居者の濃厚接触者自室待機等により、中止の判断を行った。

そのような状況で、9月に渋川女子高等学校茶道部によるお茶会が3年ぶりに開催でき、入居者・利用者にとっても喜んでいただけよかった。

高校生も新型コロナによってほとんどすべての行事が中止になってしまった3年生の発表の機会が持てたことを大変喜ばれていた。

## 5. SDGsへの取組み

①印刷枚数の削減（詳細2. 管理部）

②「NPO法人世界の子どもにワクチンを」ペットボトルキャップによる寄付を実施 18kg 7740個 ワクチン9.0本分

日本財団チャリティー自販機寄付（子ども支援） 67,860円

③法人の重点行動の各取組みを意識し実行に努めた。

特にエネルギーの省力化は喫緊の課題であるが、成果としての評価ができず課題として残った。

## 6. ICT活用への取組み

①インカムの活用により、職員間の連携がタイムリーに行えるようになった。

②オンライン研修が増える中、タブレットを含め活用ができた。

③新型コロナ感染拡大期のオンライン面会へのサポートを行った。

④各種記録への活用方法を現在使用しているソフトメーカーによる研修等を通じ確認を行い、令和5年度端末導入の道筋をつけた。

## 2. 管理部

### 1) 総括

令和4年度は、夏場以降多くの職員またはその家族がコロナウイルス感染症に感染し、感染者または濃厚接触者として代わる代わる休暇を取らざるを得ない状況となった。その間も管理部の各課では、ラインワークスやリモートによる打合せ等の連絡手段を活用しながら日常業務について滞りなく進めることができた。今後も情報の共有化を図り、直接的間接的に他部署のサポートも行いながら業務の円滑な推進を図りたい。また、外国籍職員の増加により、職員間の意思疎通や生活上のサポートが必要とされた。特に今年度はコロナウイルス感染による長期の自宅待機となったが、大きな支障なく援助をすることができた。

事業計画の年度目標と取組み結果を以下に示す。

#### 【年度目標①】

リモート研修等を上手に活用しながら専門分野を掘り下げると同時に業務の幅も広げ各自の地力アップをめざす。

(評価)

ZOOM等の間接参加により各自が担当する分野あるいは周辺分野の施設外研修に参加して専門性を高めたり、知識の習得をして業務に役立てることができた。なお、勤務時間のフレックス制度の試行中ということもあり、時間の効率的な活用により、勤務時間内で研修を済ませることができた。

#### 【年度目標②】

係を横断する外国籍職員のためのグループ化を図り、共通理解のための情報を発信する。併せて、家族も含めた在留管理の支援も図る。

(評価)

施設から発信される情報等について外国籍職員の理解を容易にするために、ラインワークス上に外国籍職員のためのグループを設定し情報の共有化を図った。特にコロナウイルス感染に対する注意を促した。また、外国籍職員の増加に伴って各自異なる在留期限を把握するために一覧表を作成し、遅延なく入国管理局に対する更新申請をできるようにした。

## 2) 総務課

### (1) 総務係

#### 【年度目標①】

SDGsの目標のひとつ「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」のテーマのもと、職員の健康づくりを推進する。

(評価)

協会けんぽ（全国健康保険協会）が実施する「生き生き健康事業所宣言」の登録を行い、協会のメールマガジンを職員に配信し、健康づくりのための情報提供を行った。

#### 【年度目標②】

ES（従業員満足度）向上にむけて、働き方改革推進のための仕組みや制度を考える。

#### （評価）

永光荘の管理部で令和4年10月よりフレックスタイム制の試験的導入し、半年間の検討の結果、令和5年4月より正式スタートすることになった。管理の煩雑さはあるものの、時間外勤務の削減、仕事とプライベートの充実等が見込めるため、今後は他部署への導入を検討していきたい。

### （2）経理係

#### 【年度目標①】

コピー用紙印刷数低減に取組み、経費の削減を図る。（年間で15%を目標）

#### （評価）

片面コピーから両面コピーへの切替やラインワークスの活用により、印刷枚数の削減を図り、管理部、特養部及び居宅ケア部全体で令和3年度より29,500枚（前年度比12.1%減、）の減少となった。金額換算すると約500千円の削減となった。

#### 【年度目標②】

経理業務のワークフローの見直しを行い、簡素化・効率化を図る。

（月次決算を毎月23日までに完了する。）

#### （評価）

業務の効率化・簡素化を図り、月次決算を毎月23日までに完了するという目標は達成することができた。予算の補正業務や当初予算の編成作業等も期限内に完了することができたので、今後は、経理の基本である正確性を維持しつつも、短縮できた時間の有効活用を図りたい。

### 3) 用務課

#### 【年度目標①】

給湯設備更新工事の推進および快適な住環境の整備

#### （評価）

厨房や浴室周辺の老朽化した配管を更新し、浴室への給湯用にA重油ボイラーを設置し、厨房用にLPガス給湯器を設置する工事が令和4年6月末に完了した。利用者に快適な入浴と美味しい食事の提供ができるように、引き続きメンテナンスと整備を行いたい。

#### 【年度目標②】

デマンド上限129kwhを目標とし、適切な電気使用による省エネ推進。

#### （評価）

デマンド装置による監視と節電対策により、年度内の最大デマンドは126kwhに留まり、上限目標の129kwh内に抑えることができた。年間

の電気消費量も前年と比較して、1%ほどではあるが、節約することができた。ただし、電気代の基本単価や燃料費調整額等の値上げにより、電気代は前年度より大幅に増えることとなったため、今後もデマンドの監視を継続し、節電を心掛けたい。

【年度目標③】

用務課スローガン：「挨拶・返事・後始末」。

(評価)

永光会の職員であることを意識し、施設周辺の外清掃時には挨拶を積極的に行った。また、次回使用の準備のために後始末をきちんと行うように心がけた。

4) 職員健康診断等状況

1. 健康診断状況

令和4年 6月 8日～29日	73人 (全体職員検診)
令和4年12月 2日～令和5年3月7日	31人 (夜勤職員検診)

2. 新型コロナウイルスワクチン接種

4回目 令和4年 7月9日、8月9日、20日	60人接種
5回目 令和4年12月6日、9日、12～13日、16日	53人接種

3. インフルエンザ予防接種状況

令和4年11月1日、8日、15日、29日	72人接種
----------------------	-------

4. ストレスチェック実施状況

令和 4年11月24日～30日	70人受検
-----------------	-------

5) 施設不在者投票 (特別養護老人ホーム利用者)

1. 参議院議員選挙

令和4年 7月 5日	不在者投票 27人
------------	-----------

2. 渋川市議会議員選挙

令和5年 2月 3日	不在者投票 13人
------------	-----------

## 6) 附表

### 1. 施設整備等実施状況

表 1

項目	内容	金額	購入日・実施日
施設備品購入	介護ベッド(離床センサー内蔵型) 5台	1,738千円	令和5年2月1日
施設修繕	中間浴改修工事(バスタブ1台、リフト付きシャワーキャリー2台設置)	3,921千円	令和4年5月24日
	給湯設備更新工事(ボイラー2台更新、ガス給湯器7台設置、A重油貯蔵タンク設置)	35,530千円	令和4年7月4日
	デイサービストイレ手すり取付	960千円	令和4年10月12日
	デイサービストイレ便器交換	598千円	令和4年10月24日
	南側門扉改修工事	748千円	令和4年10月31日
	個室ドア修理(4部屋)	862千円	令和5年3月28日

### 2. 施設外研修と会議

表 2

出席件数(延べ人数)

職種	部会・定例会・会議	一般研修	県外研修
施設長	41(41)	15(15)	2(2)
副施設長	1(1)	11(11)	5(5)
特養介護支援専門員	0(0)	3(3)	0(0)
特養介護職	0(0)	10(13)	0(0)
特養看護職	0(0)	8(10)	0(0)
特養栄養職	0(0)	4(4)	0(0)
特養事務職	6(6)	15(15)	0(0)
居宅ケア部長	1(1)	1(1)	0(0)
居宅ケア介護職	1(1)	5(9)	2(2)
居宅ケア看護職	0(0)	0(0)	0(0)

### 3. 会議及び委員会の実施状況

表 3

会議名	実施回数	出席数	参加者	会議の内容
部長会議	12回	5人	施設長、副施設長、事務長、部長	各部門懸案事項の検討 方針決定、月次収支報告
課長会議	12回	11人	施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長	各課懸案事項の審議 方針の徹底
衛生委員会	12回	12人	施設長、委員、嘱託医	施設の安全衛生に関すること
防災管理委員会	9回	9人	施設長、委員	施設防災計画、訓練、安全管理の企画点検など
食支援委員会	10回	9人	施設長、副施設長、部長、管理栄養士、委員、給食業者	給食に関する事項審議 行事食、処遇改善策
行事委員会	9回	7人	施設長、委員	行事の企画、反省
感染症対策委員会	12回	11人	施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長	新型コロナウイルスを主とした感染症対策の検討など
虐待防止委員会	12回	11人	施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長	虐待に関する懸案事項等の確認及び検討など
身体拘束適正化委員会	12回	11人	施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長	緊急的に身体拘束を実施する場合の留意点及び拘束解除に向けた検討など
リスクマネジメント委員会	12回	11人	施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長	事故発生及び事故再発予防策の検討など
入所等検討委員会	12回	11人	施設長、副施設長、事務長、部長 副部長、課長	入所待機者の動向確認とグループ分けその他入所決定についての総合的な検討
永光荘しんぶん委員会	4回	5人	委員	永光荘しんぶんの企画検討 編集、反省

4. 職員の配置状況

表 4

	特別養護老人ホーム			デイサービス		
	人数	年齢(平均)	勤続(平均)	人数	年齢(平均)	勤続(平均)
施設長	1	62	36	(1)		
事務員	5	40	9	(5)		
生活相談員	2	49	23	1	44	21
				(2)		
介護支援専門員	1	62	22			
介護職員	32	33	8	9	44	13
(非常勤)	7	48	8	1	38	5
看護職員	4	55	9	3	55	9
(非常勤)	3	67	11	1	45	1
機能訓練指導員	(1)			(3)		
(非常勤)				(1)		
管理栄養士	1	27	3	(1)		
医師						
(非常勤)	(5)					
用務職員	1	63	36	(1)		
(非常勤)	1	61	1	(1)		
合計 常勤	47	38	11	13	47	13
(非常勤)	11	54	8	2	41	3

( ) は兼務

令和5年3月31日現在

- ・ デイサービスの生活相談員3人は介護職員が兼務
- ・ 永光荘・デイサービスの機能訓練指導員は看護職員が兼務
- ・ 兼務者は合計から除外 年齢、勤続の合計は平均



5. 職員の資格取得状況

表 5

	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	(喀痰吸引) 従事者 認定特定行為業務	研修 介護職員初任者	研修 認知症介護実践者	防火管理者	衛生責任者	危険物取扱者
(特養)												
生活相談員	1	1										
介護支援専門員	1	1					1					
介護職員	26	1				1	9	6	1	1		
看護職員		1	4	6								
栄養士					1							
事務職員											2	2
用務職員										1		
(ショート)												
生活相談員	1						1		1			
介護職員	3						1	1	2			
(デイ)												
生活相談員	1	1							1			
介護職員	9 (1)						4	1	2	2		
看護職員		1	2	4								
合計	42	6	6	10	1	1	16	8	7	4	2	2
前年度合計	40	7	4	10	1	1	14	7	7	4	2	2

・重複資格取得者あり。 非常勤職員含む。 令和5年3月31日現在

・( ) は資格者所有者数のうち令和4年度試験合格者数を示す。

### 3. 特養部

#### 1) 総括

令和4年度は「たくさんの笑顔のために、地力を磨こう！」を掲げ、「情報の共有と実行」をテーマに介護ロボットやICTの活用を更に促進するため、各課と委員会で取組んだ。しかし、LIFEについては、データ提出は行ったが、フィードバックされた分析結果が不十分であり、活用するまでには至らなかった。次に新型コロナウイルス対策として、嘱託医協力のもと令和4年8月と12月に新型コロナウイルスワクチンの接種を入居者のほぼ全員と職員(一部を除く)に実施した。また、日常的な感染症対策として、健康管理及びスタンダードプリコーション(感染症標準予防策)を実施した。令和4年8月がピークとなった第7波では、複数の職員が感染、濃厚接触者となったが、施設内入居者への感染は防ぐことができた。しかし、令和5年1月がピークとなった第8波では、入居者のほとんどと多数の職員が感染してしまう大規模クラスターが発生し、入居者とその家族、関係機関等に多大な迷惑を掛けることになった。施設運営に対しても大きなダメージを与えてしまった。このようなことを繰り返さないために今回のクラスターでの経験と反省を基に再発防止と早期回復を目指し取組みを開始した。

#### 【年度目標①】

94. 2%以上のベッド稼働率を維持する。

(評価)

ベッド稼働率は89.3%と大幅に目標を下回る結果となってしまった。主な原因は付表―1に示す通り、令和4年12月までは概ね93%程度で推移していたが、令和5年1月に発生した新型コロナウイルス大規模クラスターにより、多数の退居者が発生し、収束まで約1ヵ月を要した。その間新規入居者の受入れもできず、ようやく2月中旬から新規入居者を毎週1・2人の受入れが可能となったが、2月3月は退居者も同数程度発生し、稼働率の回復には至らなかった。

また、近年、待機者数の減少が顕著であるため、関係各機関に働きかけを強化し、計画的な受入れを行ってきている。今後も継続していくことが必要である。

#### 【年度目標②】

正しい理解のもと感染症対策を行い、生活の質の維持・向上を目指す。

(評価)

感染症対策として、有効と言われているワクチン接種を嘱託医、渋川市ワクチン対策室との連携により、計画的に実施した。また、感染症を「持ち込まない」「拡げない」ために、職員と家族の感染者情報を集約、発信し、注意喚起に努めるとともに、業務内容やシフトの見直しを行い、職員が体調不良や濃厚接触者になった場合に休みやすい環境を整備した。その上で、手洗い、消毒、マスクの着用といった業務上の標準予防策の徹底を図ったが、大規模クラスター発生時では、無症状もしくは軽症状の職員から蔓延したことが原因と考えられる。そのため、今回のクラスターの検証を行い、感染経路として、疑わしい

行為や場面をピックアップし、更なる感染症予防対策の徹底を図っていく。また、今回のクラスター発生に伴う長期に渡る隔離生活により、入居者の身体機能の低下、精神的なダメージを与える結果となってしまった。そのダメージ回復に対してもリハビリや活動を強化することで、早期回復を目指し取り組んでいる。

#### 【年度目標③】

L I F Eを活用し、生活の質の向上を目指す。

(評価)

L I F Eについては、十分なフィードバックデータが得られておらず、データ活用には至っていないが、個々のADLや栄養状態などをバーセルインデックスに基づき、定期的にデータ収集したことで、一定の個別状態の変化を確認することに役立った。今後のフィードバックデータの活用に向けて準備を整えている段階である。

#### 【年度目標④】

SDG s に対して、I C T化を促進しコピー用紙の削減を行いつつ、新たな持続可能な目標設定を模索する。

(評価)

ラインワークスやインカムを活用することで、以前は記録や情報共有を行う際に紙媒体で行っていたものを見直し、コピー用紙の削減を行った。また、現場でも無駄なエネルギーを削減できるものを検討し、節水、節電を心掛けた。

## 2) 介護課

#### 【年度目標①】

従来の業務にとらわれず、入居者個々の体調や生活スタイルに沿ったケアを提供する。

(評価)

入居者個々の生活スタイルに沿ったケアを提供するため、会議を通じ業務の見直し、変更に取り組む、活動、リハビリ、口腔ケアに対応する職員を配置できるようにした。特に排泄に対して昨年度から取り組んでいる個別の尿測を継続し、排泄委員会を中心に排泄表の個別化を図り、個々の生活スタイルに沿ったケアに取り組んでいたが、大規模クラスターの発生により、感染症対応に追われ、令和5年1月以降は思うようなケアを提供できなかった。

#### 【年度目標②】

目先にとらわれず、将来を見据えた組織の成長と環境を整える。

(評価)

目標①での入居者個々に沿ったケアを実現するために、様々な支援を行っていく上で、支援を行う職員がチームとして協力し合える環境を整えることが重要であるとの考えから、全体会議で職員個々の生活における価値観を理解し合い、入居者のケア提供に反映させるためのグループワークを計画し

た。しかし、新型コロナウイルス蔓延やクラスター発生に伴い、数回しか実施できなかった。次年度も継続して取組みたい。一方、インカムやラインワークスを各職員が意識的に使用することで、スムーズな入居者対応と情報共有方法として、活用範囲が広がってきている。

### 3) 看護課

#### 【年度目標①】

新型コロナウイルスを中心とした感染症対策が円滑かつ徹底されるようにするとともに、日々の健康管理が適切に行われるよう医療、看護の専門職としての役割を果たし、入居者が安心して生活できるよう支援する。

(評価)

新型コロナウイルスワクチン接種が、円滑に行われるよう嘱託医師と連携し、実施した。また、手洗い、消毒、マスクの着用などの標準予防策の徹底に加え、職員、利用者の発熱など感染が疑われる人に対して、抗原検査を積極的に実施し、早期発見と早期対応に努めた。また、新型コロナウイルス感染症が発生した場合に備え、ガウンテクニックなどのシミュレーションを行った。夏場の第7波は職員に感染者は出たが、施設内には入らず乗り越えることができた。しかし、令和5年1月に大規模クラスターが発生してしまった。感染拡大を防止し、感染した入居者の対応のため、嘱託医、C-MATと連携して対応したが大きな被害になってしまった。今回のクラスターで経験したことを検証し、見直しを行った。今後の感染症対策に活かしていく。

#### 【年度目標②】

入居者の様々なニーズに対応できるよう、委員会活動やサービス担当者会議において、他職種協働で取組む。また、知識、技術向上のため、外部研修に参加する。特に近年高まっている看取りに対するニーズへの支援を看護職員として積極的に関わっていく。

(評価)

看護職員として委員会活動に積極的に参加し、他職種との連携を図った。また、研修については、相変わらずオンライン・リモートでの研修であったが、積極的に参加し看取りに対する考え方、家族に対する説明や対応についても学ぶことができ、新たな技術や知識を得ることができた。

### 4) 栄養課

#### 【年度目標①】

個々の栄養状態と嗜好等の情報を基に栄養マネジメントを実践し、他職種協働のもと、入居者の健康及び生活の質の向上と看取りケアの充実を図る。

(評価)

入居者個々の基礎疾患や血液検査データを考慮した食事提供を心掛けた。また、褥瘡や体重変化など場面に応じた栄養補助食品を検討し提供を行った。LIFEに関しては、データ提出を行うため、個々の栄養状態の把握に努め、データ収集と入力を行うことで、個別の情報を整理することができている。今後は、フィードバックデータを活用し、科学的な裏付けに基づいたサービ

スにつなげていく。

【年度目標②】

BCPとSDGsに対する備えと取組みを関連業者と連携して整備する。  
(評価)

関連業者と連携し、災害や感染症発生時の備蓄品やディスポ食器を確保するとともに保管場所について整備した。また、非常時の調理方法についても関連業者と共有することができた。しかし、大規模クラスターが発生した際には、準備していたディスポ食器では足りず、急遽購入することになってしまった。全国的な感染拡大であったため、仕入れ業者も在庫確保ができないといった今回の状況を今後の対策として活かしていく。

【年度目標③】

衛生管理の徹底を図る。(食中毒・感染症予防)  
(評価)

コロナウイルス蔓延下において、委託業者調理員の健康管理の徹底を促し、衛生管理チェックシートにより、衛生管理を徹底した。また、委託業者の衛生管理マニュアルも確認し、連動させることで衛生管理の徹底を図った。

5) リスクマネジメント

事故発生を少しでも防ぐため、事故・ヒヤリハット報告書をもとに現場職員により、原因と再発防止策を検討し実行した。また、事故防止委員会を中心に施設内整備と設備点検を定期的に行い、サービス担当者会議において改善点を挙げ、再発防止に対処した。

しかし、今年度入れ歯を飲込んでしまったことに職員が気付かず後日急変し、亡くなってしまうという重大事故が発生してしまった。普段から様々なことを訴えられる方という職員の思い込みが大きな要因として考えられる。今後は、入居者の異常に対して「～だろう」ではなく「～かもしれない」という危機意識を持ちながら、安全対策を徹底していく。

6) 付表

表1 入退居者状況

入退居者数 ( ) は前年度人数

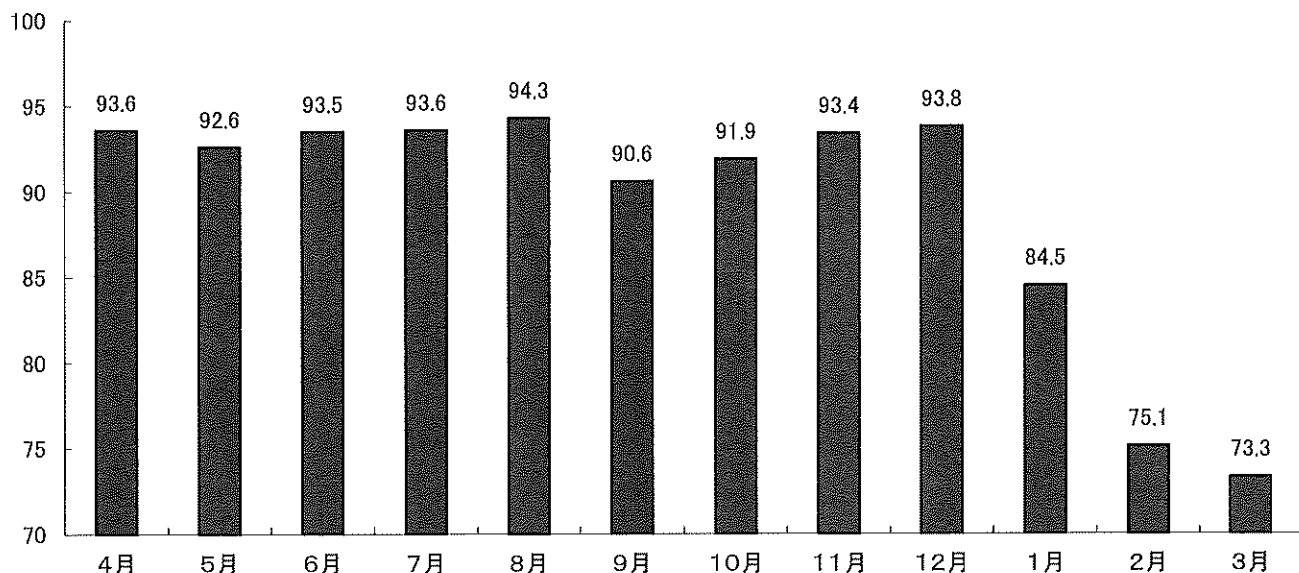
	入居者数	退居者数
男	9人 ( 6)	10人 ( 4)
女	20人 (28)	36人 (31)
合計	29人 (34)	46人 (35)

表2 退居者状況内訳

( ) は前年度人数

	死亡(看取)	死亡(病院)	他施設	医療機関
男	7人 ( 3)	2人 ( 1)	0人 (0)	1人 (0)
女	28人 (20)	3人 ( 9)	0人 (0)	5人 (2)
合計	35人 (23)	5人 (10)	0人 (0)	6人 (2)

表3 ベッド稼働率（月別推移 単位：％）



令和4年度累計・・・89.3％

表4 実習受入状況

実習校名	人数	受入期間
群馬パース大学福祉専門学校	3	令和4年 6月 6日～ 6月 29日
	3	令和4年 9月 1日～10月 14日
	1	令和5年 2月 21日～ 3月 1日

※新型コロナウイルス蔓延に伴い、複数の実習予定が中止・延期となった。

表5 外部研修参加状況

研修名	形式	参加人数	研修期間
渋川摂食嚥下研究会	WEB	3	令和4年 4月 5日
喀痰吸引等指導者講習	会場	2	令和4年 4月 15・16日
渋川摂食嚥下研究会	WEB	3	令和4年 6月 7日
在宅ケアネット渋川 講演会	会場	7	令和4年 6月 17日
在宅ケアネット渋川 POTT 講習会	永光荘	8	令和4年 6月 18日
渋川広域圏の病院と介護老人福祉施設との情報交換会	WEB	1	令和4年 6月 22日
L I F Eに関する情報交換会	WEB	2	令和4年 6月 26日
福祉施設長専門講座	会場	1	令和4年 8月 20日 ～ 8月 22日
中堅職員コース研修	WEB	1	令和4年 8月 23日
認知症VR体験会	会場	4	令和4年 9月 4日
看護研究部会全体研修会	WEB	1	令和4年 9月 14日

栄養担当職員研修会	WEB	1	令和4年10月 4日
スキンケア「浸軟予防のためのスキンケア」研修	WEB	1	令和4年10月 5日
福祉施設長専門講座	会場	1	令和5年 2月 4日・ 5日
喀痰吸引等指導者講習	会場	1	令和5年 2月 8・9日
災害時栄養・食生活支援人材育成研修会	WEB	1	令和5年 2月11日
在宅ケアネット渋川	会場	3	令和5年 3月 9日
新型コロナ感染症対応研修	会場	1	令和5年 3月15日

※令和4年12月から令和5年1月に予定されていた研修は新型コロナウイルス蔓延のため、ほとんどが中止となった。

## 7) オンブズマン報告

令和4年度も新型コロナウイルス状況下により家族を中心とした外部との交流が希薄となる中、入居者の要望の聞き取り及び苦情解決システムの一環としてNPO法人「はあとらんど」にオンブズマンを依頼し、処遇改善につなげた。主な内容としては、感染症対策などの時事的な取組み状況の確認と他施設との比較、オンブズマンとしての知識と経験から気づいた点を巡回終了後に伺い話し合い、後日書面で報告を受け、各部署で内容確認し、検討・解決を図った。

## 8) 会議、委員会実施状況

会議名	年間実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
特養部全体会議	10回	26人	施設長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 看護職員 管理栄養士	懸案事項審議、コロナウイルス対策の周知・徹底、業務等の報告、連絡など
サービス担当者会議	12回	7人	施設長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 管理栄養士 看護職員	利用者ケアプランにおけるサービス内容の検討、状況確認、モニタリングなど
リスクマネジメント委員会	12回	7人	施設長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 管理栄養士 看護職員	リスクマネジメント作業委員会における現場でのリスクを報告。事故発生及び事故再発予防策の検討など

リスクマネジメント作業委員会	10回	4人	介護職員	事故分析、環境整備、センサー使用状況の把握、マニュアル見直し、職員教育
入所等検討委員会	12回	13人	評議員 施設長 事務長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 看護職員 管理栄養士 地域包括職員 居宅ケア相談員 居宅ケア看護職員 居宅介護支援相談員	入所待機者の動向確認とグループ分け及び入所決定についての総合的な検討など
虐待防止検討委員会	12回	13人	評議員 施設長 事務長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 看護職員 管理栄養士 地域包括職員 居宅ケア相談員 居宅ケア看護職員 居宅介護支援相談員	利用者の人権擁護に関する理解と周知、虐待発生防止のための研修計画及び現場での虐待に関する懸案事項等確認及び検討など
感染症予防対策委員会	10回	8人	施設長 生活相談員 介護職員 看護職員 管理栄養士 委託業者社員	新型コロナウイルスを主とした感染症対策の検討及び発生時の対処方法の統一、感染症蔓延時におけるBCPの検討・周知など
身体拘束適正化委員会	12回	7人	施設長 生活相談員 施設ケアマネ 介護職員 管理栄養士 看護職員	身体拘束に対して、緊急やむを得ず実施する場合の留意点及び拘束解除に向けた検討の実施など



## 9) 行事報告

ご利用者の生活のリズムを構築するため、下記の季節行事を実施した。

表6-1 年間行事

行事名	実施日	内 容
花 見	3月下旬～ 4月上旬	お花見の実施。飲み物の提供。
喫茶	5月 7日	お茶会の代替えとして食堂ホールにて喫茶を実施。
喫茶	7月30日	お茶会の代替えとして第一ダイルームにて喫茶を実施。
敬老会	9月24日	渋川女子高等学校茶道部来荘し、お茶会実施。 慶祝状贈呈式。
クリスマス会	12月18日	渋川第四保育所園児から預かったプレゼントを利用者へ渡す。 渋川第四保育所園児へプレゼントを渡す。
喫茶	11月26日	お茶会の代替えとして第一ダイルームにて喫茶を実施。
餅つき	12月25日	利用者と一緒に鏡餅作りを実施。
新年の挨拶	1月 1日	新年の挨拶をし、正月らしい食事の提供。

表6-2 定例行事

行事名	実施日	内 容
誕生会	12回	毎月1日に祝い食（お赤飯）の提供を行った。 その他ご利用者個別の誕生日会を実施。
お盆供養	8月15日	真光寺の副住職を招き、実施。
秋の彼岸回向	9月21日	〃
春の彼岸回向	3月20日	〃

## 4. 居宅ケア部

### 1) 総括

一言で表現すると、「新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年」であった。そんな状況の中、目標に掲げていたサービスの質の向上に向け「LIFEの実用」を計画的にすすめ、「科学的介護推進体制加算」を取得することができた。また、今まで相談員が行ってきたシステム入力業務を係長に分担することができ、業務効率は向上した。なお、厚労省のシステム整備の遅れから、集計値比較や事業所ごとのフィードバックは未だ受け取れていないものの事業所としては、フィードバックを受ける準備を整えることができた。

感染症については、年間通して「濃厚接触者」による利用休止や職員の出勤停止が相次ぎ、高い緊張感を持って利用者・職員の健康観察と勤務体制を整えることに工面した。予防策の徹底、抗原検査キットの使用、予防着の着脱方法等場面ごとの振り返りを行い、地域の感染症情報を利用者家族へ発信、ワクチン接種の援助にも力を入れた。12月には利用者及び職員の感染発生。厳しい勤務状況で年末を乗り切った。1月にデイサービスのクラスター発生によりデイサービスは5日間休館、ショートステイは約1ヵ月間受入れ自粛の対応をとった。振り返りの結果、居宅ケア部としての具体的な要因は「年末年始の人流」と考えている。令和5年度は、更なる人流が予想されるため、GW、夏休み、年末年始と家族の集まる時期については、より一層事前の注意喚起、水際対策を実施し、366日開館を実現したい。

事業計画の年度目標と取組み結果を以下のように示す。

#### 【年度目標①】

LIFEを用いたPDCAサイクルを継続するため、係長を中心とした委員会編成や各職員の役割分担を整える。

(評価)

LIFEの基盤となる科学的介護推進体制加算を取得。必要とされるデータ入力を係長が担当。年間通して、各委員会からの利用者情報を係長会議でとりまとめる形で情報の整理に取り組んだ。委員会の役割については、一定の職員に負荷が偏り、長期休暇により担当者が不在になる等課題が残った。

#### 【年度目標②】

定期的な人事考課面談を実施し、職員一人ひとりが目標を明確にすることでモチベーションを高く持って働ける職場づくりを行う。各職員が専門性を活かし力を発揮しやすい仕組みをつくる。

(評価)

モチベーションアップのための委員会編成については、役割が持てることにより活躍できる職員がいた反面、負担が重なりストレスを感じる職員もいた。感染症蔓延による職員数の減少や、業務がひっ迫する中で、チャレンジを継続することに無理が生じたと感じている。

### 【年度目標③】

基本的な感染症予防対策の徹底と新型コロナウイルスの発生状況に応じた段階的な対応策を発信できる仕組みをつくる。BCPの研修・実施や見直しを行い、利用者・家族はもちろん、職員の不安も解消していく。

(評価)

4月から12月までもコロナウイルスに触れる機会は多く、不安、緊張、安堵を繰り返した。有症状者や陽性者との接触が疑われる者、長期休暇明け職員に対して速やかに抗原検査キットを使用した。有症状者の抗原検査は、到着後に多目的ルームにて看護職員対応にて実施。1月の発生時にも到着直後に多目的ルームにて陽性が判明することができた。状況から速やかに接触者をピックアップし、後追いをすることができた。また居宅ケア部の陽性利用者5人の内3人は直近で親戚との交流があったことを確認した。デイ休館期間は、緊急対応として業務を縮小し、特養部のヘルプ業務を経験することができた。他部署を手伝うにあたり、いくつか課題も見えたため、今後、マニュアルの見直しに活かしていきたい。

### 【年度目標④】

居宅ケア部独自のSDGsの推進

#### ①公用車の無駄なアイドリングを無くす

行き帰り送迎車を使用する際の手順を決め、使用前後のアイドリングストップに取組んだ。

#### ②コピー用紙の削減を行う

日常使用していた書式を裏面再生紙に使用することで前年より使用量を削減することができた。

#### ③ペットボトルキャップ回収に取り組む

今まで捨てていたものをリサイクルとして回収することで、職員のSDGsに対する意識が高まるきっかけとなった。

#### ④物品を正しく取扱い使用寿命を延ばす

新規購入の際に写真付きで取扱い方法を発信。ベッド・車イス・歩行器等複数台あるものについては、ナンバーリングを行い、壊れやすい物品の選定とその注意事項を発信した。また、物品の入れ替えがスムーズになった。

(評価)

SDGsに対する取組みから「もったいない」という意識が増えてきている。電気・空調関係についても無駄を考え、快適なフロア環境を保ちながら効果的な省エネに取り組んでいきたい。

## 2) ショートステイ

### 【年度目標①】

ベッド稼働率117% (1日10.5人)

デイサービス・ショートステイ一体型の事業所の特色を発信し、ショートステイの実人数を増やす。その基となるデイサービスの新規利用者数を増やしていく。

(評価)

感染症に警戒しながら、営業活動を行い、昨年を大きく上回る新規契約を締結。4月から12月まで目標を達成できる水準を維持していた。クラスター発生後は、1月12日から2月6日の25日間受入れできなかった影響を受けて年間ベッド稼働率は112%（1日10.1人）に留まった。

また、受入れができなかった期間も家族の介護力を考慮し、特定の利用者3人は利用継続することとし、デイフロアにてショートステイサービスを提供した。その他の方へは家族の同意、ケアマネジャーの協力のもと、一定期間振替えサービスにて対応していただいた。幸い再開後には100%利用者の戻りを確認。2月6日以降は特養部の空床を補填するため、1日11人以上の受入れを行った。

### 【年度目標②】

安全で安心して過ごせる環境の整備

ショートステイ利用者のライフスタイル情報を収集し、自宅同様の就寝環境を再現することで夜間帯の動きやすさを追求する。また、日中はデイサービスと合同でレク活動や機能訓練に参加し夜間の安眠につなげる。

(評価)

低床ベッドの購入と個室トイレ・入り口扉の改修を行い、自立度の高い利用者や環境の影響を受けやすい利用者に対して利用満足度を上げることができた。デイサービスの活動に参加することにより、ケアプラン上のニーズに沿った筋力低下の予防に貢献。家族やケアマネジャーから自宅に帰ってから立位が安定した・元気になったと評価をいただいた。ケアマネジャーからの評価は新規利用者の紹介につながっている。

### 【年度目標③】

感染症対策の徹底

あらかじめ同居家族の仕事、訪問客や外出の頻度等、家族構成を把握した上で、異常の早期発見・早期対応を基本として利用者受入れを行う。

(評価)

定期的に家族への情報発信を行うことで家族の感染症意識は高かった。家族から感染情報ももらい、「濃厚接触者の接触者」であっても念のため、利用を自主的に控える等家族の協力は大きかった。

クラスター発生後、家族より、実際にどんな環境で過ごしているのかという声も聞かれた。家族が感じた不安を解消するため、パーテーションやアクリル板の設置、デイフロアの様子やマスク着用率等、実施している内容をわかりやすく発信し、今後も利用者の安心につなげていきたい。

## 3) デイサービス

### 【年度目標①】

月間延べ利用者数7,900人を目指す。

(評価)

年間実績利用者数は7,258人と目標達成はできなかった。利用者・家族

や関わりのある居宅介護支援事業所との関係性を深め、利用回数や細かな時間調整など個別ニーズに柔軟に応えたことに対して評価をいただき、昨年同等の新規契約を結ぶことができた。しかし、利用回数の多い利用者が半数以上を占める状況の中、施設入居が決まり利用中止となるケース、感染症の影響から利用を控えるケースも相次ぎ、実績を伸ばすことはできなかった。今年度は、浴室配管工事により浴室をリニューアルした。デイフロアのトイレもウォシュレット付、前方手すり付に改修。また、ブザー式だったトイレコールをメロディ式に変更したことで慌ただしい雰囲気を解消することができた。外部にも入浴・排泄環境の美化を発信していき、古いイメージを払拭し集客につなげていきたい。

#### 【年度目標②】

L I F Eを有効活用するためチームとしての情報処理機能を高める。

(評価)

L I F EのPDCAサイクルの仕組みをつくるため、係長や委員会など、役割ごとに情報収集の形づくりを強化した。年度を通して、毎月委員会から挙げた情報を係長会議の場で集約し、取組むべき個別処遇をとりまとめ全体会議で共有を図ることができた。

#### 【年度目標③】

感染症予防対策の徹底と感染発生時の段階的シミュレーションの実施

(評価)

居宅ケア部の目標同様、時期・段階に合わせて準備を行い、対策を強化した。特に、送迎車並びにフロア消毒業務については、手順を整えた上で業務の優先順位を上げた。一方で、デイサービス休館となった際の利用者・各事業所への情報発信の方法については、混乱を招く状況もあった。特に電話のやりとりについては、状況報告の他、感染状況を不安視する利用者及び家族・事業所からの問い合わせが非常に多く、連絡対応について課題があったため、対応方法の見直しを行った。

### 4) 看護課

#### 【年度目標①】

感染症対策の指導と感染症マニュアルの更新等、感染症予防対策の中心的な役割を果たす。

(評価)

4、5月に利用者・職員に花粉症と似た軽微な風邪症状が広がったが、軽視せずに抗原検査キットの使用と早期受診の働きかけを行った。その他手洗い講習や嘔吐下痢の対応、防護服の着脱手順について実技講習を開催した。

12月、1月には、居宅ケア部利用者・職員に感染者があり、5日間の閉館を余儀なくされたが、感染の広がりはなく、二次感染、三次感染は防ぐことができ、重症化もなかった。休館中にも利用を希望される方が多く、地域に必要とされていることを改めて強く感じた。今回の感染対策の振り返りを今後活かしていきたい。

【年度目標②】

認知症及び身体的重度者のケアを介護課と連携して実践する。

(評価)

医療的な業務に限らず、看護課としてもL I F Eの仕組みを理解し、介護課と一緒にシステム入力や個別活動やリハビリに取組んだ。また、毎月介護職員と共に利用者の変化に合わせた対応策の協議を行った。また、重度利用者の受入れも多くあり、認知症、喀痰吸引、経管栄養、人工肛門（ストーマ）、パーキンソン病等、医療依存度の高い利用者に対しては、看護職員が中心となって情報の発信を行った。

5) 居宅ケア部活動状況

①鬼石式筋力トレーニング

実利用者数 11人 開催回数 86回

3ヵ月毎に評価を実施。対象者の半数は、身体機能の向上を確認することができた。

②新型コロナウイルス感染症により年間を通して行事活動は自粛する中、花見写真の掲示や、お雛様、兜、クリスマス、お正月等、季節に合わせ施設内装飾を実施した。

6) 福祉有償運送

定期受診や熱発受診のサポート、ワクチン接種のサポートに移送サービスを実施した。しかし、感染症蔓延時期の熱発受診の場合、所要時間が大幅に増加する等問題も生じ、対応が困難な状況もあった。

	【令和4年度】	【令和3年度】	【令和2年度】
①移送件数	40件	48件	62件
②移送距離	299.7km	413.0km	511.1km
③移送収入	54,380円	71,020円	89,480円

7) 付表

(1) 表1 居宅ケア部 新規利用者数

①ショートステイ

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4年度	1	3	1	2	6	5	2	1	2	1	2	3	29
R3年度	1	1	1	2	3	1	1	6	1	2	1	4	24
R2年度	0	2	2	1	3	2	1	1	2	2	3	3	22

②デイサービス

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4年度	2	3	1	4	1	3	4	4	1	2	4	2	31
R3年度	1	0	3	2	4	2	3	4	3	3	4	2	31
R2年度	1	2	1	6	0	4	4	3	3	0	2	0	26

(2) ショートステイ

表2 月間実利用者人数平均値及び延べ利用者数

年度	平均値	延利用者数
令和4年度	28.83人	3,673人
令和3年度	29.58人	3,793人
令和2年度	32.50人	3,649人

表3 令和4年度利用者数推移

(単位：人)

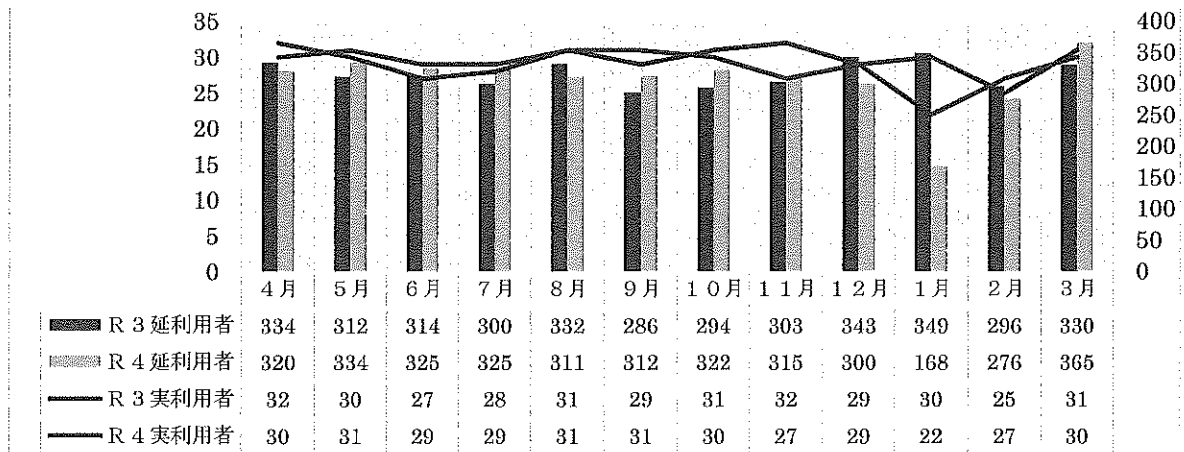


表4 要介護度別の利用状況について

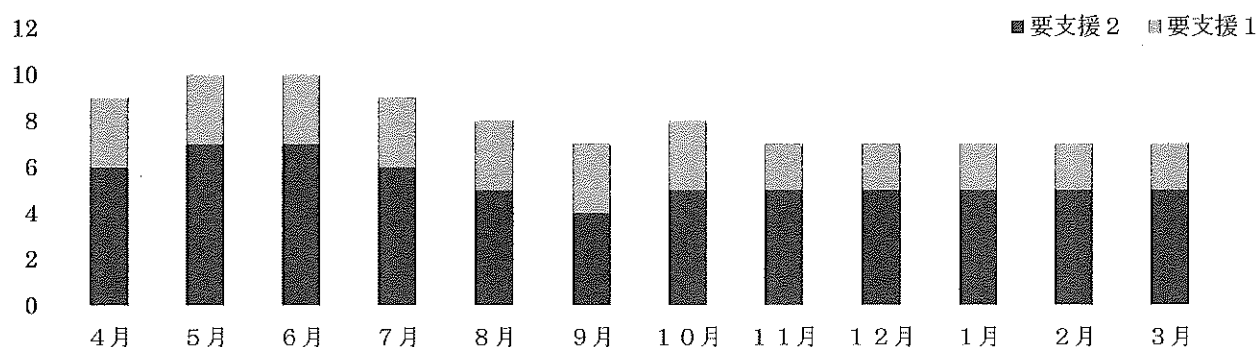
(単位：人)

	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
令和4年度	58	297	346	1,481	805	686
令和3年度	2	391	591	1,425	525	823
令和2年度	25	385	603	1,156	774	706
令和元年度	13	482	373	978	1,508	486

(3) 予防通所介護

○予防通所介護	延べ利用者数	(令和3年度)
要支援1・・・	195人	(293人)
要支援2・・・	525人	(525人)
合計	720人	(910人)

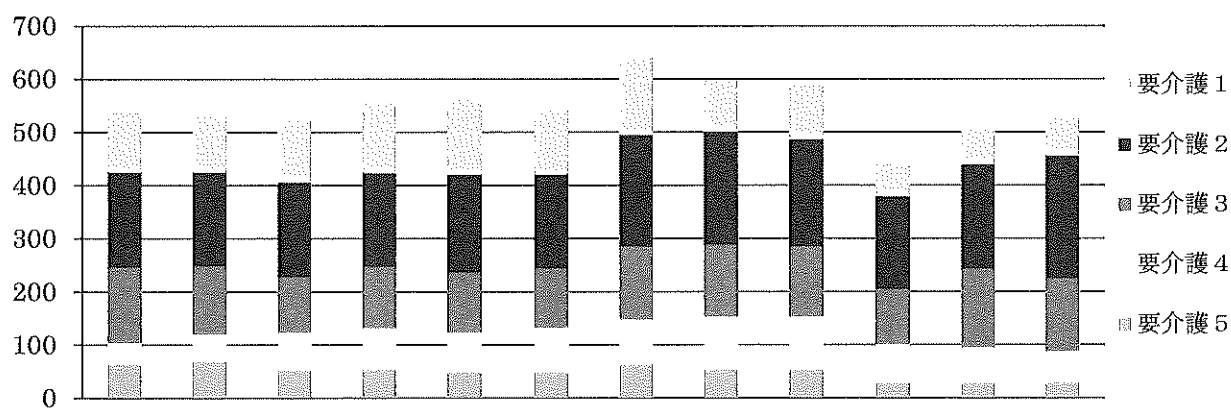
表5 予防通所介護月別実利用者数 (単位：人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	31
要支援2	6	7	7	6	5	4	5	5	5	5	5	5	65
合計	9	10	10	9	8	7	8	7	7	7	7	7	96
令和3年度	9	9	9	9	9	9	8	8	8	10	9	10	107

(4) 通所介護

表6 通所介護延べ実績数 (単位：人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	112	105	117	134	143	121	145	96	102	62	66	72	1,275
要介護2	178	176	177	175	183	176	209	212	200	173	195	229	2,283
要介護3	142	128	105	116	113	112	138	136	133	104	149	138	1,518
要介護4	41	52	71	78	75	85	86	100	99	74	68	59	888
要介護5	63	68	52	53	48	47	61	52	53	27	26	28	578
合計	536	529	522	556	562	541	639	596	587	440	504	526	6,538



表7 利用者総実績数<介護(延)・予防(延)総利用者数>

	目標利用者数	予約利用者数	実績利用者数
令和 4年度	7,900人	8,158人	7,258人
令和 3年度	8,670人	8,331人	7,811人
令和 2年度	8,673人	8,776人	8,249人

居宅ケア部会議実施状況一覧

会議名	年間実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
全体会議	10回	12人	施設長 部長 副部長 看護課長 課長補佐 介護職員 看護職員	懸案事項審議、勉強会の開催、新型コロナウイルス対策の周知・徹底、業務等の報告、連絡など 8・12月は感染症状況により中止
係長会議	10回	6人	施設長 部長 副部長 看護課長 課長補佐 介護係長	サービス内容の検討や実施状況の確認・管理、感染症対策の検討、業務管理など 12・1月は感染症状況により中止
事故防止委員会	40回	3人	課長補佐 介護係長 介護職員	事故分析、再発防止策の検討、環境整備など
リハビリ委員会	12回	6人	部長 副部長 看護課長 課長補佐 介護係長	リハビリ実施状況の確認・個別機能訓練の取組内容の整備・管理全般など
ADL委員会	12回	6人	部長 副部長 看護課長 課長補佐 介護係長	個別処遇のとりまとめやサービス内容の実施状況の確認・管理など

## 5. 設備関係整備年表

1995 (平成 7) 年	3月31日	スプリンクラー設備工事 (社会福祉施設設備補助) 完了
1999 (平成 11) 年	3月31日	自立浴・機械浴室統合工事 (大規模修繕事業) 完了
2000 (平成 12) 年	7月10日	厨房統合工事完了
	11月13日	居室等施設内空調機改修工事 (大規模修繕事業) 完了
2001 (平成 13) 年	3月26日	ナースコール改修工事 (業務省力化設備事業) 完了
	5月26日	デイルーム確保・医務室移転等事業 (大規模修繕事業) 完了
	10月18日	屋根改修工事業 (大規模修繕事業) 完了
2003 (平成 15) 年	5月21日	食堂ホールの空調機改修工事 (中央競馬場主社会福祉財団助成)
2004 (平成 16) 年	1月30日	温冷配膳車導入 (5台)
	8月30日	洗面台を自動センサー式に交換 (4台)
	12月31日	オゾン殺菌脱臭機導入 (1台)
2006 (平成 18) 年	6月 4日	スチームクリーナー2台導入
2008 (平成 20) 年	6月 8日	自立浴浴槽縁改修工事
	10月31日	給湯用ボイラー交換工事完了 (1台)
2009 (平成 21) 年	1月31日	全自動汚物除去機交換工事完了 (1台)
	4月13日	加湿空気清浄機導入 (大型12台)
	6月 5日	ドクタープラス生成機導入 (1台)
	9月25日	加湿空気清浄機導入 (小型45台)
2010 (平成 22) 年	3月31日	トイレ改修工事、ナースコール・電話設備交換工事 (大規模修繕事業) 完了
	6月24日	多機能型居宅ケアグループ (ショートステイ・デイサービス) 相談室設置工事完了
	10月 8日	職員玄関手前間仕切り用自動ロックドア設置
	10月22日	給湯用ボイラー (補助用) 交換工事完了
	12月 2日	ショートステイ用個室トイレ改修工事完了
2011 (平成 23) 年	2月 6日	機械浴槽入替工事完了
	7月20日	用務員室クロス張替工事完了
	7月31日	職員玄関前及びリネン倉庫前舗装工事完了
	8月 4日	北側及び南側ポーチ段差解消工事完了
	8月11日	厨房屋根防水工事完了
2012 (平成 24) 年	3月30日	リネン庫及び職員玄関通路屋根設置工事完了
	5月15日	施設内パソコン入替工事完了
	6月 2日	調理室内空調機交換工事完了
	7月17日	北側ポーチ前駐車スペース舗装工事完了

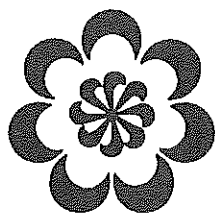
		7月27日	駐車場用地（渋川市半田778-8外1筆） 競売により取得
2012（平成24）年	1	1月19日	北側新駐車場（来客用兼夜勤者用）工事完了
		12月18日	厨房内スチームコンベクション入替工事完了
		12月26日	厨房内自動食器洗浄機入替工事完了
2013（平成25）年	4	4月10日	調理職員用休憩室設置工事完了
		10月31日	スーパー低床介護ベッド3台導入
2014（平成26）年	5	5月31日	洗濯物干し場屋根・食堂東側テラス修繕工事完了
		8月31日	受水槽増設工事完了
		8月13日	西側ブロック塀（中央部）に上毛カルタを塗装
		9月30日	非常用放送設備（事務所・第2介護員室）入替工 事完了
		12月25日	厨房内ガステーブル入替完了
2015（平成27）年	3	3月31日	建物外壁修繕工事（大規模修繕事業）完了 ぐんまちゃんの絵を塗装 北側給湯用ボイラー入替工事完了
		8月26日	西側ブロック塀（南寄り）に上毛カルタを塗装
		11月19日	高圧開閉器（PAS）・ケーブル交換工事完了
		11月30日	施設内空調機改修工事（大規模修繕事業）完了
2016（平成28）年	5	5月20日	カラオケ機材（JOYSOUND）導入
		5月23日	汚物除去機（洗濯室）入替工事完了
		6月3日	乾燥機・洗濯機（洗濯室）入替工事完了
		9月17日	洗濯室内改修工事完了
		12月15日	居室内給水管分岐取付工事
2017（平成29）年	1	1月16日	火災通報専用電話改修工事
		7月20日	浄化槽内水中ポンプ更新完了
		7月29日	調理室配管漏水修繕工事完了
		9月26日	東側擁壁補強工事完了
2018（平成30）年	1	1月5日	南側玄関ポーチコンクリート修繕工事
		2月1日	食堂ホールパーテーション設置工事（渋川市 古巻地域包括支援センター事務所用）
		3月7日	スーパー低床介護ベッド3台導入
		5月11日	北側玄関自動ドア工事完了
		9月5日	南側受水槽ポンプ交換工事完了
		11月8日	北側受水槽ポンプ交換工事完了
		12月12日	テーブル型冷蔵庫1台 冷凍冷蔵庫1台更新
2019（平成31）年	2	2月20日	スーパー低床介護ベッド3台導入
2019（令和元）年	1	10月31日	温冷配膳車5台リースにより入替
2020（令和2）年	1	1月29日	スーパー低床介護ベッド7台導入
		1月31日	永光荘西側ブロック塀撤去・フェンス設置工事
		12月3日	コロナウィルス感染症対策備品(オゾン発生装置 10台、顔認証温度検知システム3台、食堂間 仕切り一式) 導入

		12月22日	スーパー低床介護ベッド（離床センサー内蔵型） 5台導入
2021（令和3年）		1月20日	Wi-Fi 設置工事
		3月3日	スーパー低床介護ベッド2台導入 （ショートステイ）
		9月30日	A重油ボイラーサービスタンク修理完了
		11月17日	スーパー低床介護ベッド1台導入
2022（令和4年）		5月24日	シャワーキャリー2台、バスタブ1台導入
		7月4日	給湯設備更新工事
		10月24日	個室部屋ドア修理（23号室）
		10月31日	南側門扉改修工事
2023（令和5年）		2月1日	スーパー低床介護ベッド（離床センサー内蔵型） 5台導入
		3月28日	個室部屋ドア修理（20号室～22号室）

資料 3

令和 4年度

# 事業報告書



社会福祉法人 永光会

特別養護老人ホーム清流の郷

管理部

特養部

デイサービス部

## もくじ

1. はじめに (総括)	.....	1
2. 管理部	.....	3
1) 職員健康診断等状況等	.....	5
3. 特養部	.....	6
1) 介護課	.....	8
2) 看護課	.....	8
3) 栄養調理課 (給食状況)	.....	9
4. ショートステイ	.....	11
5. デイサービス部	.....	13
○介護保険事業	.....	13
1) 介護課	.....	15
2) 看護課	.....	16
○日常生活支援総合事業	.....	16
6. 付表		
管理部	(表-1) ~ (表-5)	.. 17~20
特養部	(表-6) ~ (表-15)	.. 21~23
デイサービス部	(表-16) ~ (表-21)	.. 24~26

## 1. はじめに（総括）

令和4年度は「心を込めたケア（介護・看護・調理）の実践を！」～ケア現場にある非常識をなくしていこう～を施設方針に掲げ運営を行った。

この1年で一番大きな出来事は、7月下旬から約1ヶ月の間に発生した、新型コロナウイルスのクラスター感染である。この期間中に、職員7人・デイ利用者4人の計11人が感染し、デイサービスの11日間の休館や職員の大幅なシフト見直し、PCR・抗原検査の実施等で施設全体が大きな打撃を受けた。入居者・利用者にも多大なご迷惑とご負担をお掛けしたことをこの場を借りてお詫び申し上げたい。しかしながら、特養入居者への感染拡大は全くなく、またデイ利用者も重症者が出なかったことは不幸中の幸いであり、これは担当医の的確なご指示とこまめな検査の実施、及び現場職員の迅速な感染対策の結果であると思われる。このクラスターを教訓に、再度の発生がないように予防対策をしっかりとしていきたい。

今年度開始に合わせ、これまで準備していた特養ユニット定数の変更とショートステイ居室数増加を行った。特養は以前のユニット改修の際に空き部屋となった2階の6部屋を稼働させ、1階の特養6部屋をショートへ変更した。ショート定員が倍増したことにより、延べ利用者数は昨年度までより大幅に増加したが、コロナクラスターの影響で計画していたベッド稼働率には届かなかった。その他の入居者・利用者の状況は、特養のベッド稼働率はほぼ計画通りであったが、デイサービス利用者数は計画を大幅に下回った。これは先述した11日間の休館の影響が大きいですが、それだけでなく新規受け入れ数も減少していることも要因であり、利用者獲得が令和5年度の大きな課題である。

今年度は第三者評価を受審した。コロナクラスターのため、受審日は予定していた時期から大幅に遅れたが、特養・デイともに年度内に実施することができた。マニュアルや記録等、しっかりと整っていると思っていたが足りない部分も多く、次回を受審までには整備していきたい。尚、評価結果を事業報告書に記載したいと考えていたが、受審日が年度末に延期となり、結果の到着が報告書作成に間に合わずに掲載できなかった。結果については、永光会ホームページに掲載するほか、県社会福祉協議会ホームページでも閲覧ができるのでご確認いただければと思う。

施設方針の副題にある「ケア現場にある非常識をなくしていこう」については、特養・デイの計4回の身体拘束等適正化研修の中で、座学やグループワークを通じて職員同士の議論を行い、自分たちが知らぬ間に行っている非常識を気付けるいい機会になった。来年度以降も引き続き実施していく予定である。

今年度計画していた、眠りスキャン（睡眠状態を観察するセンサーマット）とコミュニケーションロボットは、コロナクラスター対策で予算外の支出があったために導入を断念して、来年度に再度予算化することにした。また、計画していたBCP訓練

も予定日がクラスター対応時期と重なってしまったために延期としたが、結果として年度内に開催することが出来なかった。ただ、感染症対策についてはクラスター対応が皮肉にも実戦対応となったので、その際の対応を今後のBCP見直しに役立てたい。

ICT化については、特養・デイ全体で介護記録システムの導入が完了し、全職員が対応できるように研鑽中である。今後は次へのステップとして、タブレットの導入や申し送りの簡素化、記録のペーパーレス化を進めていきたい。

また、LIFEについては、特養・デイの全入居者・利用者の情報送信は完了し、来年度送られてくるフィードバックをどう活用していくかが課題となる。

さて、令和4年度は、コロナクラスターや定員数変更、第三者評価等、大きな出来事があった1年であった。また、外国人職員の人数も年々増加し、施設のICT化や記録システム導入をより早急に進めなければならない状況であった。まだ進んでいない部分も多いが、全体的に一歩ずつではあるが前に進んでいる感じである。まだまだコロナ収束にはならないと思われるが、今出来ることを確実に先に進めていき、入居者・利用者の生活がコロナ禍前よりも楽しく、元気になっていくように来年度以降も取り組んでいきたい。

### 各事業の介護保険収入

年度 各事業	平成30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
特 養	246,212	244,276	248,799	251,104	253,425
ショート	27,308	25,373	25,784	26,130	44,573
デ イ	91,300	91,476	82,757	82,611	70,895
合 計	364,820	361,125	357,340	359,845	368,893



## 2. 管理部

「心を込めたケア（介護・看護・調理）の実践を！」～ケア現場にある非常識をなくしていこう～ の基本方針を元に、利用者へのより良いサービス提供ができるよう、また、施設全ての職員が気持ち良く元気に働けるよう、連携を密に取りながら業務を行ってきた。

**【年度目標①】** 利用者に「清流の郷に来て良かった」と感じて頂けるサービスの提供ができる環境づくりを行う。

（評価） 職員の健康増進を目指して毎日定刻にラジオ体操を実施してきたが、令和4年度健康診断による腰痛チェックでは、前年度よりも腰痛者が増加してしまった。ストレスチェックにおいては、前年度の結果よりも、高ストレスと診断される職員が増加したが、コロナ禍による行動制限の延長や、コロナ感染で休養する職員を補うための労働時間増加など、職員の精神的また身体的な疲労度の高かったことが、一因ではないかと思われる。

職員の健康的な笑顔が、どれだけ利用者への安心感に繋げられるかは計り知れないが、このような状況下であっても、利用者からの苦情はなく、むしろ「また清流の郷にきたい」と、話されるショートの利用者や、「職員さんに本当にお世話になっているよ」と、窓越し面会で家族へ元気に伝える特養入居者の声は、施設職員の日常的な努力の“たまもの”以外の何ものでもない、心より実感した。

**【年度目標②】** 感染症から施設を守る。

（評価） 7月～8月にかけて、施設職員が新型コロナウイルスに感染し、デイサービスでは11日間の休館を余儀なくされた。その後、職員やその家族で感染者が発生したが、入居者への感染拡大はなかった。外部来館者への検温や手指消毒の徹底と共に、新規に購入設置した、スリッパ除菌装置を活用して、施設内への感染源の持ちこみを防いだ。

**【年度目標③】** 職員の人権や尊厳を守る。

（評価） 育児休暇を取得する職員や、病気療養のため長期休暇を余儀なくした職員との連絡、また、外国人職員への在留資格更新手続の対応など、永光荘本部と連携を密に取りながら、業務を円滑に行うことができた。

## 総務係・用務係

### 【年度目標①】 人的・物的資源を守る。

(評 価) 蛍光管照明からLED照明への更新作業は、年度当初の計画の通りに厨房の調理場と事務室、2階看護職員室とデイサービス事務室で実施。また、定期的に提示される法人『SDGs重点行動』の実践と共に、政府発出の“冬季節電要請”を受け、空調温度を調節して節電を行い、前年同時期より約38,000kW使用電力量を下げる事ができた。  
(電気料金単価値上げで、請求額は前年同時期より約100万円増)

### 【年度目標②】 災害に備える。

(評 価) 計画をしていたBCP訓練は、施設内コロナクラスター発生等により実施ができず、代わりに『法人事故防止の日』に、ラインワークスを活用して施設職員への水災害を想定した『非常伝達訓練』を行った。令和5年度は、BCPマニュアルの見直しと共に訓練を実施する。

### 【年度目標③】 第三者評価を受審し、サービスの質の向上を図る。

(評 価) 業務に関するマニュアル、防災や防犯に関するマニュアルの見直し、その他、関係機関に提出する書類等の整備確認を行い、他部署と協力しながら第三者評価の受審に臨むことができた。

- ・特養ショート：令和4年12月19日～20日 指摘事項 特になし
- ・デイ ：令和5年 2月21日～22日 指摘事項 特になし

システムサーバー更新に伴い、利根川の洪水氾濫を想定して、1階事務室から2階事務室へ移設することで、知的財産の安全を確保できた。

なお、年度目標以外の取組みとして、以下を実施した。

## 1) 職員健康診断や新型コロナウイルスワクチン接種等の状況

### 1. 職員健康診断状況

令和 4年 6月 9日 61人 (全体職員健診)  
令和 4年11月25日 24人 (夜勤従事職員健診)

### 2. 新型コロナウイルスワクチン接種

第4回目 令和 4年 7月11日～ 7月20日 (利用者と職員)  
第5回目 令和 4年12月 7日～12月12日 (利用者と職員)  
※第1回目～第3回目までは、令和3年度に実施済み。

### 3. 職員インフルエンザ予防接種状況

令和 4年10月14日と21日 61人 (全体職員予防接種)

### 4. ストレスチェック実施状況

令和 4年11月23日～30日 51人 (週30時間以上勤務職員)

## 2) 施設不在者投票・期日前投票 (特別養護老人ホーム利用者)

1. 令和 4年 7月 8日 参議院議員選挙 期日前投票 11人  
2. 令和 5年 2月 1日 市議会議員選挙 期日前投票 4人

## 3) 群馬県の指導検査と渋川市の指導検査

令和4年度について、実施は無し。

### 3. 特養部

4月1日にユニット定員数の群馬県条例が変更されたことに伴い、2階ユニットの倉庫や職員室として使用していた、6床を4月から稼働することができた。

県内で新型コロナウイルス感染者数が急増した7月から8月にかけて、清流の郷においても職員5人の感染がみられた（うち2人は施設内での感染）。感染拡大を防止するため、8月に施設内において、嘱託医による接触者を対象としたPCR検査を3回（入居者延べ63人、職員47人）、抗原検査を1回（入居者13人、職員6人）実施し、結果は全員陰性であった。感染拡大を防止することはできたが、健康観察期間中は施設全体の業務とケアを縮小したり、一時的に職員の変則勤務を導入するなど、入居者と職員への身体的・精神的な負担となった。

ベッド稼働率では、年間96.7%（目標：97.0%）と0.3ポイントならず、未達成であった。新規入居者の入所中の施設や清流の郷で感染者が発生し、入所日を延期するケースが7月以降複数みられたり、5月から11月にかけては、1人の入居者が入退院を繰り返したことが、ベッド稼働率低下の要因となった。

厳しい一年であったが、利用者記録システム（介護・看護・栄養）の導入と活用など、施設全体でICT化を一步進めることができた。

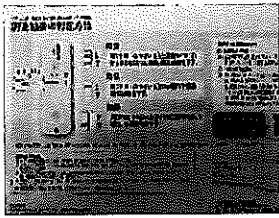
12月には、第三者評価を受審し、概ね高評価を受けた。低い評価を受けた箇所もあったので、マニュアルの作成や見直し、職員への周知徹底を行い、サービスの質の向上に繋げていきたい。

事業計画の目標を達成するため、以下の取組を実施した。

【年度目標①】新型コロナウイルス対策、SDGsを多職種協働で重点的に進める。

（評価）新型コロナウイルス対策は、症状がみられたり発熱をしている場合は、産業医やかかりつけ医等を受診し、積極的にPCR検査等を受け、陰性が確認され、症状が消失してからの出勤を徹底した。また、発熱した入居者や職員の同居家族が発熱している場合は、出勤前に陰性を確認するため、施設で購入した抗原検査キットを使用した。その他、感染予防対策を徹底したことで、施設内での新型コロナウイルス感染のクラスターを防ぐことができた。

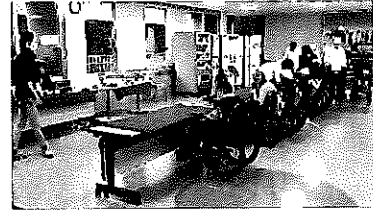
SDGsについては、重点行動を周知して未来のための取組を行った。



使用した抗原検査キット



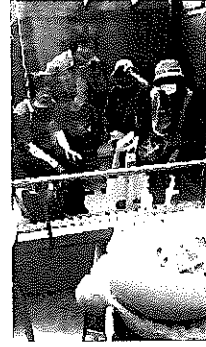
施設内研修



お馴染みのお茶会を開催



期日前投票へ出掛けた



窓越しの面会の様子

【年度目標②】 ICTとLIFEを活用して、ケアの質を向上させる。

(評 価) 介護課・看護課・栄養課に記録システムが導入されたことで、パソコンがあれば、その場で欲しい情報が取得できるようになり、家族からの問い合わせや、LIFEの入力等でも活用ができるようになり、業務負担の軽減に繋がった。LIFEは、活用できるフィードバックが届いていないため、ケアの質の向上には繋がっていない。看護記録の入力研修を12月から3月にかけて3回開催した。介護・看護の情報共有のベースが整ったので、今後は内容の充実や活用方法の幅を拡げていきたい。

【年度目標③】 ベッド稼働率97%を目指す。

(評 価) 新型コロナウイルス感染症の流行により、新規入居者の入所先施設や清流の郷においても、新型コロナウイルスの感染者がみられたことで、入所するまでの期間が通常2週間程度だったのが、4週間から6週間かかることが複数あった。また、入退院を繰り返す入居者がいたこともあり、ベッド稼働率97%の目標を達成することができなかったが、目標とする介護保険の収入は確保できた。

【年度目標④】 第三者評価を受審することで、サービスの質の向上を図る。

(評 価) 12月19日と20日の2日間で第三者評価を受審した。新型コロナウイルス感染症の影響により受審時期が遅れたこともあり、受審結果をサービス面に反映することはできていない。今後、不足しているマニュアルの作成や職員への周知徹底を図り、サービスの質の向上に繋げたい。

## 1) 介護課

【年度目標①】 介護職員のレベルアップとモチベーションアップを目指す。

(評 価) 介護福祉士実習指導者講習会を介護職員2人が受講し修了した。  
介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサー研修については、介護職員1人が受講し修了した。  
アセッサーによる内部評価は、介護職員1人を開始し、実施途中である。  
介護技術研修会の開催は、外部研修の内容を施設内へフィードバックする形で、介護課会議において、5月にオムツの当て方研修、6月にPOTTプログラム研修、12月に食事委員会の中で「食べたい」を支援する食事介助研修について開催した。

【年度目標②】 時代に求められる施設介護職員としての役割の実践を目指す。

(評 価) BPSDケアプログラムを活用した研修については、1人を対象に情報収集を行い、ケア計画を作成し実施した。関わり方や環境作りなど、プロセスを通し、職員のスキルアップに繋がった。  
4月に介護課の会議で「ケア現場にある非常識」というテーマで接遇についての研修会を開催した。  
喀痰吸引等研修については、介護職員3人が実地研修を受講中である。

## 2) 看護課

【年度目標①】 医師・介護・調理と協力して日常生活を支えるための看護を実践する。

(評 価) 主に誤嚥性肺炎の予防や治療に関して、医師からの助言の元、食事の形態変更や一時中止など、栄養課とも連携をとることができた。また、日常生活の中で口腔ケアの重要性を示し、介護課と共に協働することができた。一人の入居者に対して、多方面からアプローチし関わるすることができた。

【年度目標②】 予測的判断のもと、入居者だけでなく施設全体の健康保持、増進に努める。

(評 価) 入居者、職員ともに健康診断を実施し、疾病の予防、異常の早期発見など治療に役立てることができた。感染症に関して、地域の感染状況の把握や感染兆候の有無を観察し、特養入居者の感染は、防ぐことができた。

【年度目標③】 看取り看護のスキル向上とコロナ渦における家族との密な連携を取る。

(評 価) 看取りに関して、家族が受容できるよう状態をこまめに報告し、一定の条件のもと直接面会をしてもらうように心がけた。スキルの向上に関しては、研修の参加ができなかった為、次年度の課題とする。

### 3) 栄養調理課

【年度目標①】 イベント食等を実施し、食べる側もつくる側も楽しい食事づくり。

(評 価) コロナウイルス感染対策のため、例年開催しているバイキングは実施せず、喫茶や季節の行事に沿った給食の提供を行った。ユニットごとにもっとは違う雰囲気での食事を楽しんで頂く事が出来た。  
(「行事食」 表-11 参照)

6月おやつ「喫茶」  
手作りあんみつ



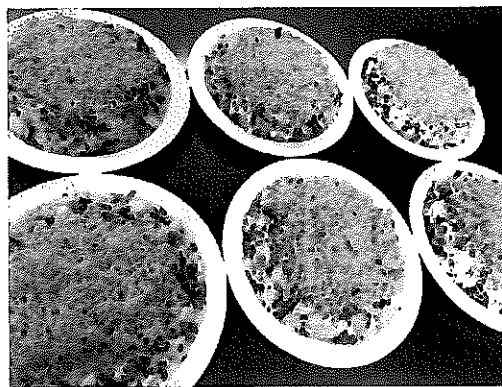
7月昼食「土用の丑の日」  
うなぎちらし等



9月昼食「敬老の日」  
カレーのうにマヨ焼き、肉じゃが等



3月昼食「ひなまつり」  
ちらし寿司等



【年度目標②】 基本に立ち返り、マニュアルに沿った安心安全な食事を提供する。

(評 価) 大量調理施設衛生管理マニュアルやHACCPを基本とし、施設内での作業の統一を図るためマニュアルの作成を開始した。年度中の完成にはならなかった。来年度以降も作成、状況に応じて更新していく予定である。

【年度目標③】 一人ひとりのスキルアップを目指し、働きがいのある環境づくり。

(評 価) 職員の退職やコロナウイルス感染による人員不足により、人材育成の重要性をより一層強く感じた。調理員がコロナウイルスに感染した際は、使い捨て食器や冷凍のお弁当で対応した。通常の給食でも完全調理済み食品の使用頻度を増やしている。高度なスキルを必要としなくても調理業務が可能になり、調理師の負担を分散することができた。食品の硬さや味付けの細かい対応ができないことが課題である。引き続き一人ひとりのスキルアップを目指し、より良い給食提供につなげていきたい。



## 4. ショートステイ

令和4年度は、4月1日からショートステイの入所定員を6人から12人に変更した。ベッド稼働率は、72.7%（目標：82.5%）と目標を達成することができなかったが、延べ利用者数は、4,380人（令和3年度 1,942人）と大幅に増加することができた。

7月に職員1人、8月に職員4人が新型コロナウイルスに感染し、10月には利用中の利用者1人の新型コロナウイルスの感染が判明するなど、その都度、利用者の受入れを中止したことが、ベッド稼働率低下の要因となった。10月に感染が判明した利用者は、病院からそのまま入所したこともあり、本人と家族の同意を得て、3日間居室で過ごす対策を行っていた。症状が出て感染が判明したのは、居室で過ごす対策を解除した数日後ではあったが、他への感染は嘔吐物を処理した介護職員1人で、他の職員や利用者への感染はみられなかった。感染対策と共に、居室が個室ということや感染が判明した利用者が居室で過ごす時間が長く、施設内でのクラスターにはならなかった。

7月と8月には、同じ利用者が利用中に施設から外へ出て、行方不明となってしまうことがあった。2回とも無事に発見し、保護することができた。8月の時は、7月に行方不明になっていたこともあり、GPSを靴に入れて利用していた。行方不明となり、GPSの管理会社に連絡し、位置情報の提供を受け、発見することができた。

以前、作成した検索マニュアルが役立った。しかし、一步間違えれば大事故になりかねないので、今回の件を教訓にし、日頃の点検と対策を徹底していく。

事業計画の目標を達成するため、以下の取組を実施した。

【年度目標①】新型コロナウイルスに気を付けながら楽しみのある日中活動を創造する。

（評価） 外に出て散歩をしたり、アジサイの工作をしたり、フキ入りのたこ焼きづくりなど、季節に合わせて楽しんだ。



ベランダから桜を楽しむ。



フキ入りのたこ焼きパーティー



毎年恒例の芋掘り。

【年度目標②】送迎事故「ゼロ」を目指す

(評 価) 送迎事故は「ゼロ」を達成することができた。ユニット会議において、送迎マニュアルをベースに安全運転について、職員間で徹底し共有した。

【年度目標③】基本的ケアのレベルアップを目指す

(評 価) 認知症ケアについては、ユニット会議において、NP I 評価 (BP S D ケア尺度) を活用し、関わり方や対応方法について学び実践した。

介護プロフェッショナル段位制度を通し、基本的ケアが習得できるよう取組を実施中。

【年度目標④】接遇と居室環境を見直して、ベッド稼働率82.5%を目指す。

(評 価) 介護課会議やユニット会議において、言葉遣いなどの接遇について徹底した。居室で趣味活動が行いやすいよう、テーブルや1人用のこたつを設置した。数人の利用者から「お部屋で手芸がやりやすくなった・すごくお部屋が過ごしやすかった」と喜んで頂くことができた。

【年度目標⑤】ポジティブシンキングの考えで苦手であってもできるようにする。

(評 価) 年度当初は、苦手な事から逃げてしまう職員がみられていたが、少しずつ気持ちの変化がみられ、向上心を持ち仕事に取り組んでいる様子がみられたり、職員間で感謝の気持ちを伝え合うことができるようになってきた。

## 5. デイサービス部

令和4年度は、住み慣れた地域で、できる限り自宅で自立した生活を送るため、施設方針「心を込めたケア（介護・看護・調理）の実践を！」～ケア現場にある非常識をなくしていこう～のもと、職員一丸となって利用者が笑顔になれるデイサービス作りに取り組んできた。

7月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、11日間閉館せざるを得ない状況となった。その後、感染防止対策を強化したことで、施設へのコロナ感染はなかった（【年度目標⑤】にて詳細を報告）。

介護・看護職員で、介護ソフトへのケア記録入力 of ICT化により、業務効率の向上に努めた。

### ○ 介護保険事業

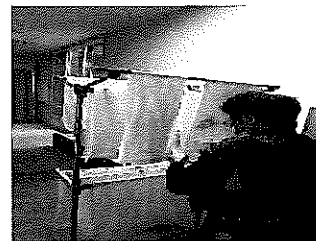
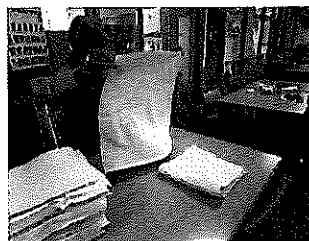
【年度目標①】利用者一人ひとりの思いや気持ちを大事にした尊厳を守るケア。

（評 価） 身体拘束等適正化の施設内研修を受講し、職員の「言葉遣い」ひとつで、身体拘束やハラスメント、虐待につながる事を学んだ。話を聞く姿勢や態度、敬語での受け答えを意識して業務に取り組んだが、「言葉遣い」が雑になることがあった。

利用者のプライバシーを守るため、排泄時のベッドカーテンや、入浴時のスクリーンの設置等のケアの徹底ができた。

【年度目標②】利用者の残存機能を生かした自立支援のためのケア。

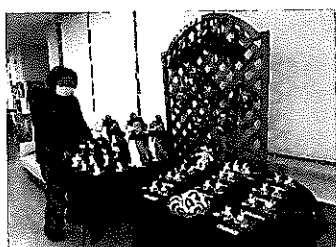
（評 価） グループのリハビリ体操、個人のリハビリ訓練は毎日実施し筋力の低下防止や維持向上に努めた。また、認知症の方にタオル畳みや、洗濯物干しなどのお手伝いを依頼した。次第に自ら率先して手伝いをしてくれるようになった。



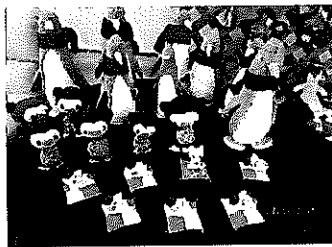
タオル畳みや物干しなど作業の様子

【年度目標③】利用者が趣味や嗜好を楽しめ、くつろげる環境をつくる。

(評 価) パッチワーク教室で作品作りに取り組む方やタオルで雑巾縫いをする方、またチラシでゴミ箱作りする方がいて、それぞれ自分の好きな時間を過ごされていた。テレビの YouTube を使って好みの動画視聴や、新聞・雑誌などを読む方もいた。  
ソファを3台増やし、リラックスできるスペースを提供した。



利用者のパッチワーク作品



ゴミ箱折の様子

【年度目標④】L I F Eの運用を始める事でケアの質の向上を図る。

(評 価) 令和5年3月時点の全利用者のデータ送信できたが、送信完了が3月になってしまい、「科学的介護推進加算」の取得は年度内にできなかった。令和5年度に加算取得申請を行う。

【年度目標⑤】新型コロナウイルス感染症防止の徹底。

(評 価) 発熱や体調不良の場合は利用を中止とし、職員は出勤停止の対策をとってきたが、7月28日(木)に利用中の方が体調不良で午前で帰宅し、受診後コロナ陽性が判明した。その後、8月5日(金)までに、利用者4人、職員4人の感染者が発生した。これにより、7月30日(土)から8月9日(月)まで11日間の休館となった。職員の体調不良時の報告の怠り、陽性利用者と接触があった方のリストアップと、その後の状況確認の不備もあり、感染が蔓延した。  
(表-16) 参照。

下半期は以下の感染防止対策を強化し、コロナウィルスの侵入を抑えることができた。

- ①朝の送迎乗車前に利用者の検温や体調確認をする。
- ②職員が体調不良時は、必ず上長に報告し、自己判断せず無理な出勤を控える。
- ③「一行程一手洗い」とマスク・メガネの着用と、換気の徹底。
- ④テーブル、イス、アクリル板、食器、洗面所、トイレ、送迎車の消毒の徹底。

【年度目標⑥】 減少している利用者数を増員する。

(評 価) 令和4年度は年間利用者数の目標を「8,400人」としたが、大幅に下回り「6,520人」であった。要因として新型コロナウイルス感染症による11日間の休館で、273人減少となった。新規利用者も年間18人と昨年度の25人を下回り、営業活動が不足したことにより、計画した利用者数の獲得ができなかった。

(表-19参照)

【年度目標⑦】 第三者評価を受審して、サービスの質の向上を図る。

(評 価) 第三者評価を令和5年2月21、22日に受審した。

受審したことにより、ケアマニュアルの中で、個別ケアに関する項目など、見直しを必要とする部分の確認ができた。

今後、ケアマニュアルの見直しを行いサービスの質の向上を図りたい。

## 1) 介護課

【年度目標①】 利用者の生活課題に基づいたケアを提供し「おもてなしの心」をもって、楽しめるデイサービスを作る。

(評 価) 「おもてなしの心」をもって言葉遣いや目線を意識して取り組んだ。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響で外出行事が中止となり、「お楽しみ会」では、手作り天ぷらやお寿司を提供し、「忘年会」では、宝くじやゲームで楽しんで頂いた。



お楽しみ会や忘年会の食事の様子と記念撮影

【年度目標②】 安全運転を励行し、交通法規を厳守し1年間無事故を目指す。

(評 価) 1年間を通して、無事故・無違反で送迎業務ができた。委員会が中心となってリフト車の車椅子固定方法を会議で実施し、職員への周知を図った。横断歩道での歩行者優先のための停止や、すれ違い時に無理に進まず相手に譲るなど、マナーある安全運転を心がけた。

【年度目標③】 コロナウィルス感染防止対策の徹底（入れない！広めない！）

（評 価） 7月28日にコロナウィルス感染症が施設で発生した。感染防止対策は続けてきたが、健康管理の徹底が疎かになってしまったことが反省される。

下半期は、職員や利用者の現状把握と感染対策を強化・継続し、施設内への感染を防いだ。

## 2) 看護課

【年度目標①】 コロナ感染症の情報を収集、現状の把握をして対応をしていく。

（評 価） 地域のコロナ感染状況、利用者と職員その家族の情報を把握し、感染防止対策に努めた。健康観察で早期に異常の発見から、家族と連携して受診へつなげる対応ができた。7月のクラスターが発生したことは悔やまれるが、陽性利用者や職員、及びその家族や接触者の体調状況の確認をして蔓延防止に努めた。

【年度目標②】 利用者の残存機能の維持、向上を図る。

（評 価） 個別訓練、グループリハビリを継続して行った。利用者が飽きないよう、足の運動のためリハビリ体操のビデオを使用したり、「足じゃんけん」のゲームを取り入れたり工夫を凝らした。その結果、年間を通して、施設内での大きな転倒事故がなく、怪我や入院する利用者も出なかった。

## ○ 日常生活支援総合事業

【年度目標①】 利用者の自立支援を図る。

（評 価） レクリエーションやリハビリ体操の参加を促して、筋力低下防止や他者との交流の促進に取り組んだ。編み物や手芸など趣味を楽しむ時間を提供した。

【年度目標②】 月平均実利用者「13人以上」。

（評 価） 12月から3月にかけて、要支援から要介護へ変更となった方や、死亡や入院などで実利用人数が目標の13人を下回ったが、年間を通して、月平均実利用者は「13.4人」で目標を達成できた。

（表-20参照）

## 6. 附表

施設整備等実施状況 (表-1)

項目	内容			備考 (単位:千円)	
備品購入	特養	スリッパ殺菌剤スプレー	1台	令和4年 4月 10日納品	263
備品購入	SS	食洗機	1台	令和4年 6月 20日納品	150
設備修繕	特養	2階さくら棟空調修理	1式	令和4年 6月 23日完了	561
備品購入	施設全体	システムサーバー	1台	令和4年 6月 30日納品	1,650
備品購入	デイ	ノートパソコン	2台	令和4年 7月 7日納品	297
備品購入	特養・SS	離床センサー付電動ベッド	2台	令和4年 7月 7日納品	594
備品購入	特養	リクライニング車イス	2台	令和4年 10月 27日納品	250
設備修繕	施設全体	ガス気化装置修繕	1式	令和4年 12月 2日完了	438
設備修繕	デイ	機械浴槽修理	1式	令和4年 12月 2日完了	438
設備更新	SS	自動電気温水器	3式	令和4年 12月 25日更新	438
設備修繕	施設全体	厨房吸排気システム修繕	1式	令和5年 2月 2日完了	438
設備更新	特養	エレベーター基板更新作業	1式	令和5年 2月 4日更新	1,067

施設外研修と会議 (表-2) 出席件数 (前年度)

職種	部会・定例会・会議	一般研修	講師
施設長	3 ( 3 )	4 ( 4 )	6 ( 6 )
相談員 (特養・デイ)	0 ( 0 )	2 ( 2 )	0 ( 0 )
介護職員 (特養・デイ)	2 ( 3 )	3 ( 15 )	0 ( 0 )
看護職員 (特養・デイ)	0 ( 0 )	1 ( 7 )	0 ( 0 )
栄養調理・管理部職員	2 ( 2 )	5 ( 5 )	0 ( 0 )

※研修や会議は、WEBリモート開催等を含む。今年度の県外研修参加実績はない。

※講師は、大谷施設長が県立青翠高等学校からの依頼により出席した回数。

※運営会議と管理部会議、編集委員会は、法人開催により上記に含まない。

会議の実施状況 (表-3)

会議名	実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
法人運営会議	11	4	理事長、業務執行理事、事務長、	法人各事業の運営・管理及び法人懸案事項の決定
部長会議	10	4	施設長、生活相談員、管理副部長	施設各事業の運営・管理及び施設懸案事項の決定
設備検討委員会	10	4	施設長、生活相談員、管理副部長	施設設備に関する懸案事項の審議・検討
代表者会議	10	9	理事長、施設長、生活相談員、ケアマネ、看護係長、栄養士、調理係長、管理副部長	各部門懸案事項の審議、方針の徹底等
衛生委員会	10	9	施設長、衛生委員、産業医	労務の安全性と職員の健康保持促進の検討・啓発
リスクマネジメント委員会	10	9	施設長、リスクマネジメント委員	事故分析、環境整備、マニュアル見直し
感染症対策委員会	10	9	施設長、感染症対策委員	感染症に対する対策について協議・検討
入所等検討委員会	10	10	施設長、特養相談員、第三者委員、ケアマネ、介護・看護職員、栄養士	施設利用待機者の入所順序を審議・検討
サービス担当者会議	10	9	施設長、ケアマネ、特養相談員、特養介護・看護職員、栄養士	利用者ケアプラン作成、モニタリングなど
褥瘡対策委員会	10	9	施設長、特養相談員、ケアマネ、特養介護・看護職員、栄養士	褥瘡予防、対応方法の検討、マニュアルの見直し
ユニットリーダー会議	10	8	施設長、特養相談員、ケアマネ、介護課長、ユニットリーダー	ユニット介護サービス懸案事項の協議・検討
特養介護課会議	10	18	施設長、特養相談員、特養介護職員	介護サービス懸案事項の協議・研修
デイサービス全体会議	10	12	施設長、デイ相談員、デイ介護職員、デイ看護職員	デイサービス懸案事項の協議・研修
栄養調理課会議	5	7	施設長、栄養士、調理職員	栄養調理課内の諸事項の協議・研修
排泄委員会	10	6	施設長、特養相談員、排泄委員、メーカーアドバイザー	排泄介助のための協議・検討と実施、反省
栄養委員会	10	6	施設長、特養相談員、栄養士、栄養委員	給食に関する事項審議、行事食、処遇改善策
食事委員会	10	8	施設長、特養相談員、管理栄養士、栄養士、食事委員	食事に関する事項審議、食事介助及び処遇改善
防災管理委員会	12	6	施設長、防災委員、訓練参加職員、訓練立会消防署員	防災計画、訓練実施と反省、安全管理と点検

「実施回数」は、年間の会議回数を表し、「平均出席」は、会議への平均参加人数を表す。

※施設内コロナ流行等により、開催予定の中止あり。



職員の配置状況 (表-4)

	特別養護老人ホーム			デイサービス		
	人数	年齢(平均)	勤続(平均)	人数	年齢(平均)	勤続(平均)
施設長	1	57	6.0	(1)		
事務職員	2	59	15.0	(2)		
生活相談員	1	45	15.0	1	54	15.0
				(4)		
介護支援専門員	(2)					
介護職員	26	43	6.3	8	46	6.5
(非常勤)	9	46	3.7	2	73	8.9
看護職員	4	40	5.8	3	49	6.9
(非常勤)						
機能訓練指導員						
(非常勤)	1	51	15.0	1	29	2.0
栄養士	1	30	3.3	(1)		
調理職員	4	56	10.7	(4)		
(非常勤)	2	69	0.5	(2)		
医師						
(非常勤)	2	64	14.2			
清掃洗濯職員						
(非常勤)	4	58	8.6	(4)		
合計 常勤	39	47	8.9	12	50	9.5
合計 (非常勤)	18	58	8.4	3	51	5.5

( ) は兼務

令和 5年 3月31日現在

・特養介護支援専門員は、介護職員が兼務

・デイ生活相談員は、デイ介護職員が兼務

兼務者は合計から外す

年齢、勤続の合計は平均

職員の資格取得状況 (表-5)

		社会福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	調理師	認定特定行為業務者 (喀痰吸引)従事者	介護職員基礎研修
特 養	生活相談員	1	1	1							
	介護職員		25 (3)	4						21	4
	看護職員				2	2					
デ イ	生活相談員		1	1							
	介護職員		5	1		1				2	
	看護職員				1	2					
栄 養	栄養士							1			
	調理職員							1	3		
令和 4年度 合計		1	32	7	3	5	0	2	3	23	4
令和 3年度 合計		1	34	7	3	6	0	2	3	23	5

重複資格取得者あり

令和 5年 3月31日現在

※ ( ) 内は、令和4年度合格者の内訳人数

特養 入退所状況 (表-6)

	実利用者数	入所者数	退所者数
男	10人(11)	2人(3)	3人(3)
女	53人(48)	11人(7)	10人(6)
合計	63人(59)	13人(10)	13人(9)

(入所者内訳) (表-7)

	病院	老人保健施設	在宅	有料
男	0人	0人	0人	0人
女	1人	3人	3人	3人

(退所者内訳) (表-8)

	死亡	長期入院	在宅復帰	その他
男	0人	0人	0人	3人
女	8人	0人	0人	2人

死亡8名は、施設での看取り。その他5名は、入院先の病院で死亡。

市町村別(介護保険者)入退所状況 (表-9)

渋川市	沼田市	中之条町	昭和村	前橋市	桶川市
57人	1人	2人	1人	1人	1人

給食数 (表-10) (単位: 食)

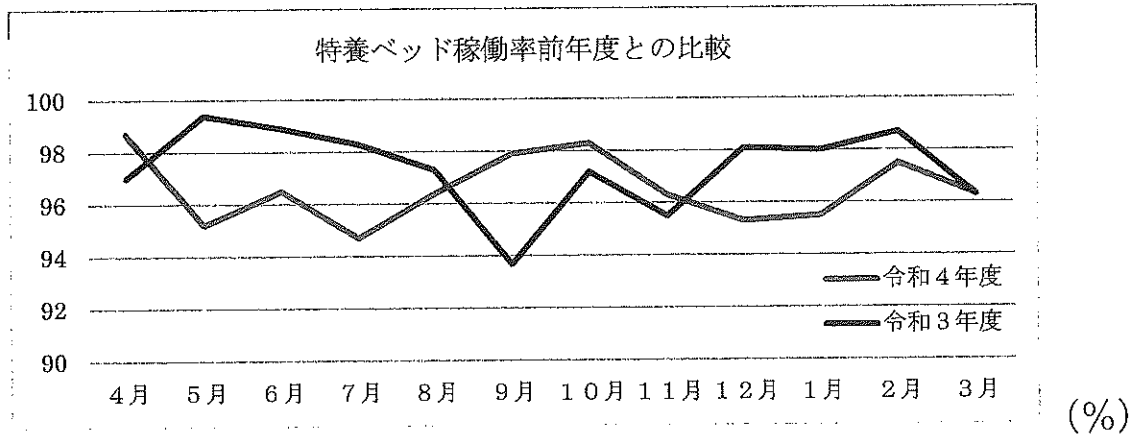
	一日平均食数	年間合計
特養利用者	130	47,416
ショートステイ利用者	22	8,152
デイサービス利用者	19	6,773
特養職員(夜勤等勤務者)	7	2,440
合計	178	64,781

行事食 (表-11)

日付	行事名	食事	食事内容
5月 6日	端午の節句 お茶会	おやつ	・柏餅、柏餅風和菓子、スベラカーゼ餅、抹茶
6月 27日	喫茶	おやつ	・手作りあんみつ、水ようかん、アイス、飲み物
7月 7日	七夕	昼食 おやつ	・ちらし寿司、そうめん、星形フルーツ、他
23日	土用の丑	昼食	・和菓子、水ようかん、抹茶 ・うなぎちらし、なすのおろし和え、すまし汁、他
8月 1日	釜の口開け	おやつ	・饅頭
14日	お盆	おやつ	・おはぎ
9月 9日	重陽の節句	昼食	・栗御飯
19日	敬老の日	昼食	・赤飯、かれいのうにマヨ焼き、肉じゃが、他
12月 9日	忘年会	昼食	・鍋、うどん、ねぎとろ、小松菜の煮浸し、他
20日	デイ忘年会	昼食	・握り寿司、天ぷら、ほうれん草の胡麻和え、他
22日	冬至	昼食	・かぼちゃ御飯、他
24日	クリスマス	昼食 おやつ	・ハンバーグ、星形フルーツ、他 ・クリスマスケーキ、シャンメリー
28日	餅つき	おやつ	・おしるこ、おろし、きな粉、他
31日	大晦日	夕食	・年越し天ぷらそば、大豆五目煮、他
1月 1日	新年祝賀会	昼食	・ぶり照り焼き、豚角煮、紅白なます、黒豆、雑煮、栗きんとん、きんぴら、紅白蒲鉾、昆布巻、みかん、伊達巻、里芋煮、他
7日	七草粥	朝食	・七草粥風、他
9日	初釜	おやつ	・おしるこ、抹茶
2月 3日	節分	おやつ	・ふんわりきなこムース
3月 3日	ひなまつり デイランチ バイキング	昼食 昼食	・ちらし寿司、桜もち、他 ・どんぶり、天ぷら、菜の花のお浸し、他
21日	お彼岸	おやつ	・ぼたもち

・毎月1日は赤飯提供

特養ベッド稼働率（月別）（表－12）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和4年度	98.7	95.2	96.5	94.7	96.4	97.9	98.3	96.3	95.3	95.5	97.5	98.2	96.7
令和3年度	97.0	99.4	98.9	98.3	97.3	93.7	97.2	95.5	98.1	98.0	98.7	96.3	97.4

特養 月別 入院者推移（表－13）

実入院者数	7人	延入院者数	11人
延入院日数	133日	一人平均入院日数	12日
最長入院日数	25日	最少入院日数	1日

特養 月別 実入院者数と延入院日数（表－14）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実入院者数(人)	0	1	2	2	1	2	2	1	1	2	0	0
延入院日数(日)	0	25	9	24	17	27	17	2	9	2	0	0

特養 令和4年度実習生受入れ（表－15）

実習校名	実人数	延人数	備考
群馬パース大学福祉専門学校	2人	34人	介護実習 I－(3)

7月から9月にかけて予定していた渋川青翠高校の「介護職員初任者研修」と、赤城北中学校の「職場体験」、群馬パース大学福祉専門学校の「介護実習Ⅱ」は、新型コロナウイルスの感染者数増加のため中止した。

通所介護 新型コロナウイルス感染症 発生経緯 (表-16)

7月28日(木)	利用者1人	午前利用中、発熱。午後受診し陽性。
7月29日(金)	利用者1人	午前利用中同じく発熱。午後受診し陽性。
7月30日(土)	職員 1人	出勤前、抗原検査(+)。受診し陽性。
7月30日(土)	職員 1人	自宅で午前抗原検査(+)受診し陽性。
7月31日(日)	利用者1人	自宅で発熱。受診し陽性。
8月 1日(月)	職員 1人	前日発熱、のどの痛みあり。受診し陽性。
8月 5日(金)	利用者1人	咳症状あり。受診し陽性。前日、息子が陽性。
8月 6日(土)	職員 1人	3日に家族が陽性になる。受診し陽性。

通所介護 実利用者・延べ人数・稼働率 (表-17)

	営業日数	実利用者数	延べ利用者数	1日平均利用者数	1日目標数	平均稼働率
平成30年度	365日	815人	9,027人	24.7人	26.5人	98.98%
令和元年度	366日	803人	9,020人	24.6人	24.5人	100.40%
令和2年度	365日	700人	7,940人	21.9人	24.5人	89.40%
令和3年度	365日	651人	7,963人	21.8人	22.7人	95.90%
令和4年度	354日	576人	6,520人	18.4人	23.0人	77.62%

通所介護、要介護度別利用者推移 (表-18)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成30年度	3,549人	3,178人	937人	563人	800人	9,027人
	39.32%	35.20%	10.38%	6.24%	8.86%	100%
令和元年度	3,315人	3,132人	1,220人	506人	847人	9,020人
	36.75%	34.72%	13.53%	5.61%	9.39%	100%
令和2年度	3,105人	2,425人	1,417人	506人	487人	7,940人
	39.11%	30.54%	17.85%	6.37%	6.13%	100%
令和3年度	2,865人	2,602人	1,238人	779人	479人	7,963人
	35.98%	32.68%	15.55%	9.78%	6.01%	100%
令和4年度	1,864人	2,418人	1,041人	681人	516人	6,520人
	28.59%	37.09%	15.97%	10.44%	7.91%	100%

## 介護保険事業、月別利用状況

(表-19)

	営業日数	実利用者数	延べ利用者数
4月	30日	49人	606人
5月	31日	53人	648人
6月	30日	54人	633人
7月	29日	53人	602人
8月	22日	49人	401人
9月	30日	48人	571人
10月	31日	48人	574人
11月	30日	49人	539人
12月	31日	45人	490人
1月	31日	42人	490人
2月	28日	43人	445人
3月	31日	43人	521人
令和4年度	354日	576人	6,520人
令和3年度	365日	704人	7,963人

※令和4年7月(2日)と8月(9日)、コロナにより休館。

## 日常生活支援総合事業、月別利用状況

(表-20)

	営業日数	実利用者数	延べ利用者数
4月	30日	16人	108人
5月	31日	16人	106人
6月	30日	15人	109人
7月	29日	15人	106人
8月	22日	11人	53人
9月	30日	15人	110人
10月	31日	16人	108人
11月	30日	14人	98人
12月	31日	12人	83人
1月	31日	11人	73人
2月	28日	11人	73人
3月	31日	9人	64人
令和4年度	354日	161人	1,091人
令和3年度	365日	149人	1,062人

※令和4年7月(2日)と8月(9日)、コロナにより休館。

## 通所介護年間行事

(表-21)

実施月	行事名	行事内容	職員研修
4月	花見	コロナウイルス感染症の為、送迎時の花見を実施。おやつは施設で食す	全体会議
5月	お楽しみ会	スーパーこいけによる移動販売と食事会を実施	全体会議
6月	おやつ バイキング	バイキング形式で好みのもの選んでもらった	全体会議
8月	デイ祭り	コロナ感染症の為中止	全体会議
9月			第1回身体拘束等適正化研修
10月	お楽しみ会	食事会、ゲーム大会を実施	全体会議
11月	パッチワーク展	利用者の制作した作品をデイホールにて多数展示	全体会議
12月	忘年会	デイホールで忘年会を実施	全体会議
1月	初詣	絵馬を書いていただき、施設内の清流神へお参り。福引を実施。	全体会議
2月	節分	無病息災を祈り年男・年女の方で豆まきを実施	全体会議 第2回身体拘束等適正化研修
3月	ランチ バイキング	バイキング方式で昼食会を実施	全体会議

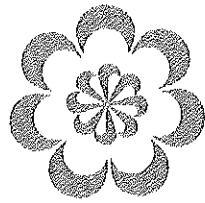
イベント浴は、年4回実施した。

(5月は「菖蒲湯」、7月は「薔薇湯」、10月は「リンゴ湯」、12月は「柚子湯」)



令和4年度

# 事業報告書



社会福祉法人 永光会

居宅介護支援事業所 永光荘

## 1) 総括

令和4年度は、年度始めより新任職員が着任し、4人体制での事業を継続した。新規利用者の支援依頼に対して、窓口を広く積極的に受入れを行った結果、利用者数の大幅な低減はなく、安定した事業を継続することができた。

事業計画の年度目標と取組み結果を以下のように示す。

### 【年度目標①】

担当月間利用者数、年度末135人（介護110人、予防25人）

年間延べ件数、1,250件（介護）265件（予防）

（評価）

令和4年度結果は下記の通り。

【月間】利用者数、年度末109人（介護90人、予防19人）

【年間】延べ件数 1,314件（介護：1,107件、予防：207件）

実利用者数 146件（介護：123件、予防：23件）

新規受入れ件数 38件（介護：32件、予防：6件）

支援終了件数 30件（介護：24件、予防：6件）

新規利用者の受入れ状況については、各医療機関からの依頼が多かった。その他地域包括支援センターからの依頼も増えている。新規受入れ件数に対して支援終了件数も上記の通りで、実数の増加に苦慮するところではあるが、今後も関係各所との連携を密にして、引き続き窓口を広く柔軟な受入れを行っていききたい。

### 【年度目標②】

主任介護支援専門員更新研修をはじめ、各種研修への参加機会の確保

（評価）

各更新研修を予定通り受講。また、他事業所との共同事例検討会が新型コロナウイルスの影響で（2回開催予定）1回のみで開催。この研修では当事業所職員が事例発表を行い、支援に関する事例検討会を行った。

その他、地域包括支援センター主催の介護支援専門員研修など、Web研修が中心であったが参加することができた。

### 【年度目標③】

新型コロナウイルス感染症等の動向に応じた柔軟な利用者支援

（評価）

新型コロナウイルスについては、職員家族の感染による出勤停止のほか職員が感染したケースもあり、担当者不在の期間を他職員で支援する形をとることができた。また、1月には永光荘ショートステイ及びデイサービスの営業休止があり、利用者のサービス調整に迫られた。感染リスクの高い不安定な年度であったが、各職員がお互いの状況を補い合い、利用者支援についても滞りなく、継続的なフォローを行うことができた。

## 2) 付表

表1-1 要介護度別利用状況

単位：人

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和4年度	354	306	218	160	69	1,107
令和3年度	337	354	238	119	91	1,139

表1-2 月別利用状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	31	31	31	29	30	32	31	31	30	29	28	28	361
女	56	59	61	63	62	65	65	66	62	62	63	62	746
合計	87	90	92	92	92	97	96	97	92	91	91	90	1,107
令和3年度	98	96	95	99	100	97	97	95	92	91	88	91	1,139

表2 介護予防 月別利用状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	7	7	8	8	7	7	7	6	6	7	7	8	85
女	10	10	10	10	11	10	10	10	10	10	10	11	122
合計	17	17	18	18	18	17	17	16	16	17	17	19	207
令和3年度	32	30	31	32	31	31	29	28	26	19	18	17	324

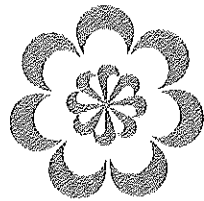
表3 共同（5事業所）事例検討会実施状況

実施日	実施場所	事例検討内容
令和4年 6月22日(水) 13:30~	澁川市社会福祉協議会子持支所 会議室	事例提供事業所ケアマネが課題を感じている ケース事例を検討する (事例提供：居宅介護支援事業所 永光荘)

※新型コロナウイルス感染まん延のため、1回は中止。

令和4年度

# 事業報告書



社会福祉法人 永光会

渋川市古巻地域包括支援センター  
指定介護予防支援事業所



## 1) 総括

渋川市古巻地域包括支援センター（以下、古巻包括）は、渋川市の事業委託を受け、委託期間2期目2年目、通算5年目の運営となった。

令和4年度についても、新型コロナウイルスの影響に伴う地域の各活動自粛と再開の動向を踏まえながら、各種委託業務を行った。

支援困難ケースの対応では、地域に周知が図られてきたこともあり地域内のスーパーマーケットと連携し対応ができた。また、古巻地区の高齢者の暮らしや介護等に関する身近な「困りごとの総合相談窓口」として、民生委員や地域にある居宅介護支援事業所や、地域内外の警察署からの連絡により表出したケースに対応し、問題解決へ向かうことができた。

地域に根差す社会福祉法人永光会が運営する古巻包括として、高齢者がその人らしく在宅生活を送れるよう、関係機関と連携を図りながら総合的に支援活動を行っていくことを大切にしてお対応した。

## 2) 包括的支援事業

### (1) 周知活動業務

新型コロナウイルスの感染症予防に細心の注意を払いながら（媒体とならない・施設内に持ち込まない）、独居者宅訪問を含む地域の高齢者や各関係機関等に向けて、引き続き古巻包括及びその母体である社会福祉法人永光会の周知を行った。

また、周知方法として「古巻地域包括支援センターたより」を発行（年4回）し、「永光会たより」に添えて地域に向けて情報発信した。

### (2) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 <表1-1・2>

地域の高齢者が住み慣れた場所で暮らすことができるよう、介護サービスをご利用されていても心配なケースについては、同行訪問や関係機関へのつなぎ・仲介等を含め担当の居宅介護支援事業所ケアマネジャーに対する後方支援を行った。

また、介護予防支援業務を委託している市内外の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対して、予防プランの内容チェックや要介護認定者を含めケアマネジメントに関する質問・相談等（245件）の支援を行った。

### (3) 総合相談支援業務 <表2>

地域で生活する高齢者等に関する多種多様な相談を受け、その内容によって必要・適切と考えられる各種専門機関や制度・サービス等へのつなぎや紹介を行った。

多くの問題を抱える高齢者に対しては、医療・福祉・生活面で切れ目のないサービス提供が図られるよう関係者と連携・調整し在宅生活継続の支援を行った。

引き続き民生委員の定例会出席（計10回）にて顔の見える関係性の構築に努め、令和4年度についても地区担当民生委員から新規で13件の相談があり、その都度情報の共有や連携を図り対応を行った。

また、コロナ禍においての認知症による徘徊・迷い人や虐待発生の早期発見

等、高齢者の安全確保に努めるべく、市の高齢者等あんしん見守りネットワーク事業に関して、新たに2店舗と協賛登録事業所の契約を交わした。

介護保険での担当ケアマネジャーとしての動きも含めた3職種合計の延べ対応件数としては年間で、4,514件であった。(相談内訳として、電話：2,063件・来所：344件・訪問：1,455件・その他：652件)

#### (4) 権利擁護事業

高齢者の権利擁護に関する啓発活動を実施した。

高齢者虐待(疑いも含む)の案件では、前年度からの継続対応中のものが4件あり、新規の通報はなかった。高齢者虐待対応マニュアルに沿って被虐待者の安全確保に関する支援と虐待者(養護者)に対する虐待予防に関する支援を行った。

状況確認のための情報収集に伴う訪問や電話対応等で3職種合計134回の動きが行った。その結果、3件が年度内で終結した。

消費者被害・特殊詐欺等の対応はなかった。渋川市消費生活センターとの連携や渋川市・群馬県警からの配信メールによる情報をもとに、詐欺(未遂)内容について把握し(令和4年度についても新型コロナウイルスに関連付けたものが多かった)、民生委員の定例会出席時での周知や訪問時等に高齢者へ注意喚起を行った。

#### (5) 介護予防教室・家族介護教室

半田地区の住民を対象として、地域の介護予防サポーターとも連携を図り、6月に「熱中症の予防・対応・自作経口補水液の作り方、夏の電子レンジ料理」の講話と指体操の介護予防教室を実施した。(半田新屋敷前河原住民センターにて19人参加)

また、古巻地区の住民を対象として、10月に介護保険制度についてをテーマに、制度説明に介護サービス利用についての寸劇を行い、家族介護教室を実施した。(有馬会館にて27人参加)

#### (6) 地域ケア会議の開催

自立支援型地域ケア会議を9月に1回開催した。住み慣れた地域で、健康意欲を損なうことなく、自立意欲を持って継続して生活を送るにはどのように支えられるか、ケアマネ・病院理学療法士・管理栄養士・ヘルパー・歯科衛生士・薬剤師・生活支援コーディネーターらと検討を行った。開催方法は、コロナ禍のためオンラインにて開催した。2事例の検討を行い、今後の支援にすぐに活かすことができるご助言を多角的にいただくことができた。

#### (7) 在宅医療・介護連携推進業務

退院に伴う在宅復帰支援を含め利用者の状態や生活状況の変化に応じて、その都度適切と思われる介護サービス等の提供がなされるよう医療機関・介護サービス事業所との連携調整を行った。

#### (8) 生活支援体制整備事業

古巻地区地域助け合い活動推進協議体に構成員として年6回開催中、5回参加し、前年度の計画に基づき、介護保険サービスの利用について地域住民に周知を図ることを目的として、当包括支援センター職員が講師となり勉強会も行った。

「地域の課題を表出させ、課題解決のために現代に合致した体制整備を構築していきましょう。」とコロナ禍で希薄になった他者・世代間交流や生活に直結する買い物支援について活発な意見が交わされた。

#### (9) 認知症総合支援事業

一般市民を対象に認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に関する理解と普及啓発を行った。その結果、関係者や受講者に対し新たに古巻包括及び社会福祉法人永光会の周知が図れた。(古巻公民館にて16人参加)

また、渋川市が主催する「小学生のための認知症まなびの講座」のスタッフ員として実施に協力した。(市内6小学校へ訪問)

その他の取組みとしては、高齢者に対し渋川市の「認知症あんしんガイド」を配布し理解と啓発に努めた。なお、徘徊高齢者等事前登録の新規申請支援は1件で渋川警察署担当課と連携を図っている。

### 3) 介護予防ケアマネジメント事業

総合事業対象者及び要支援認定者に対して、コロナ禍においての自立支援と住み慣れた地域での生活の継続に向けて、介護保険を始めとしその他各種フォーマル・インフォーマルなサービス利用が行えるよう支援を行った。

### 4) 災害発生時の対応

自然災害の一つと捉え、国や県・市からの新型コロナウイルスの感染症予防に関する情報について、地域の関係者や高齢者らに随時情報提供した。

地域の高齢者等に併設の特別養護老人ホーム永光荘が「福祉避難所」として位置づけられていることを周知した。

引き続き古巻地区自主防災組織のメンバーとも情報の共有を図り、災害発生時には行政や特別養護老人ホーム永光荘と支援の連携を図って行くこととする。

### 5) 委託の在り方の検討

令和4年度については中央包括から新たな委託業務量の追加等はなく、それに伴っての他法人委託包括との間において内容を協議するような機会はなかった。なお、今年度内地域包括支援センター管理者変更があった。そのために、各委託包括と業務内容に関する情報の共有や課題に対する共通認識を図り、適宜中央包括や市役所担当課に確認・助言を求め、業務の遅滞がないよう努めた。



6) 付表

表1-1 予防プラン月別件数

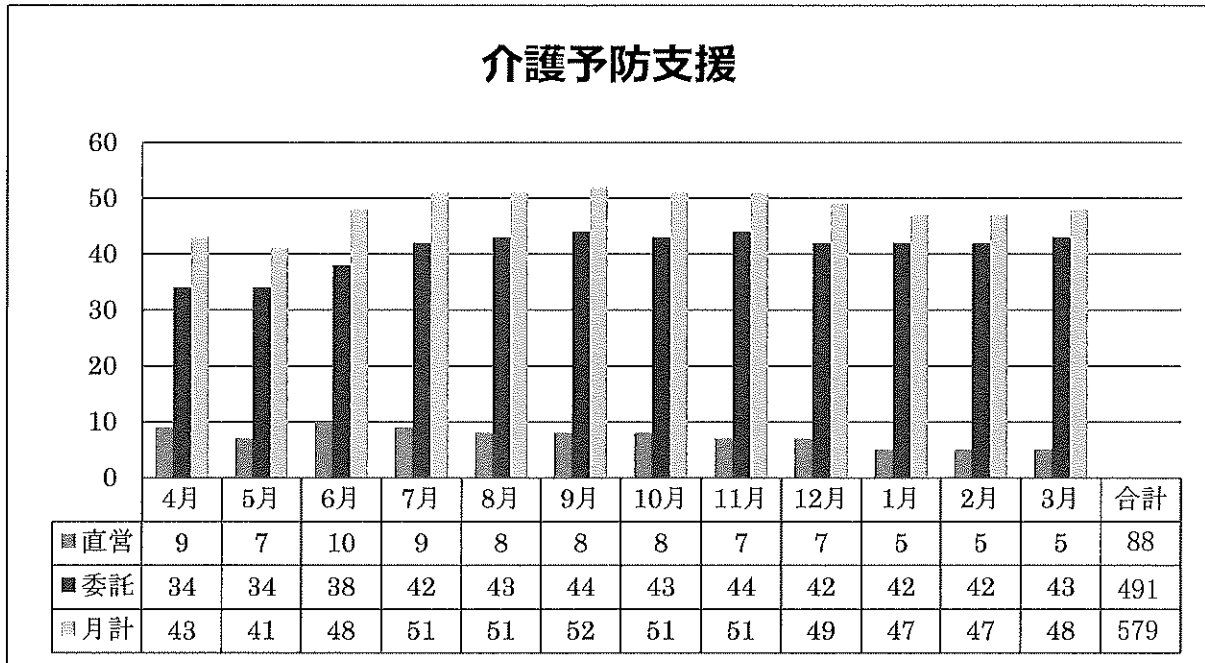


表1-2 総合事業プラン等月別件数

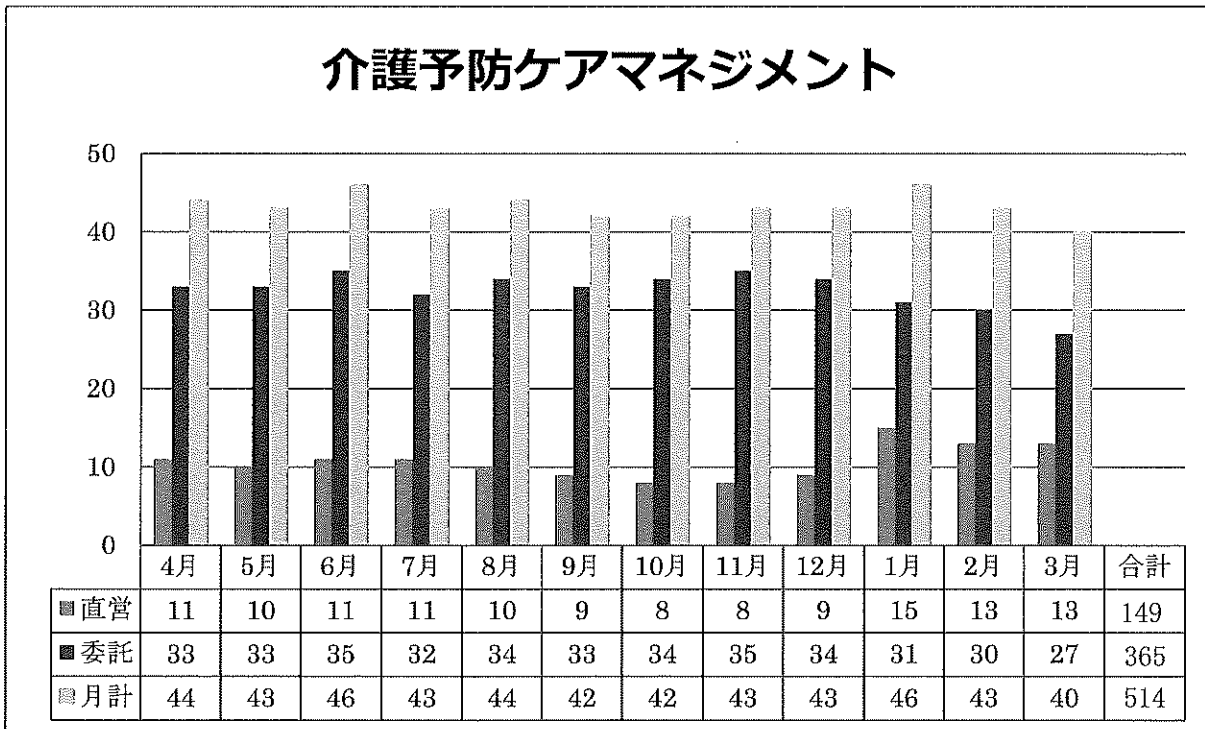


表2 総合相談支援業務

